

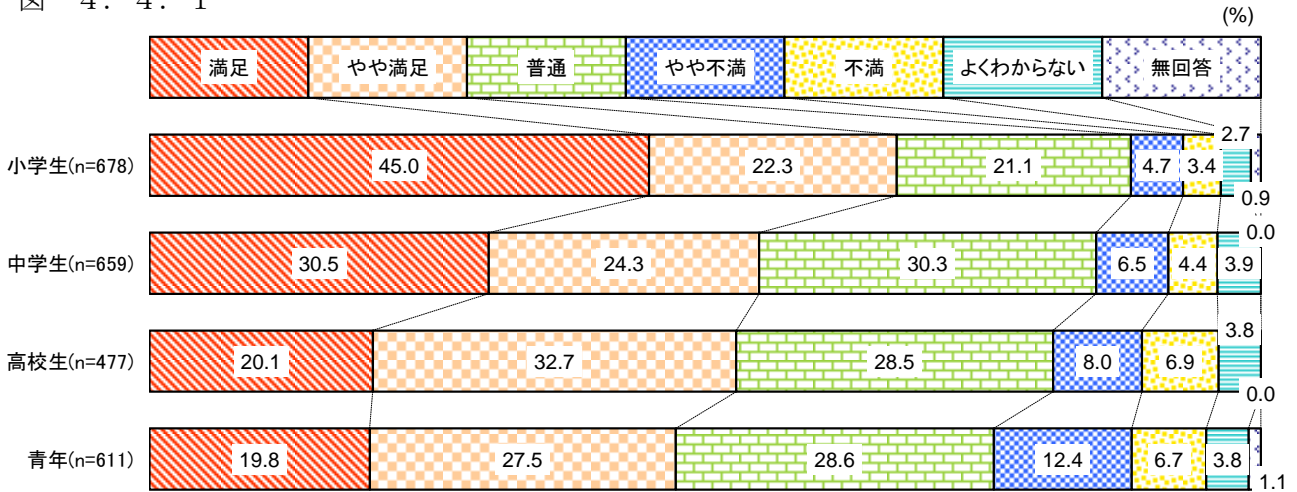
## 4 生活全般

### (1) 現在の生活の満足度（小学生、中学生、高校生、青年）

現在の生活に満足していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 満足 2 やや満足 3 普通 4 やや不満 5 不満 6 よくわからない

図 4.4.1

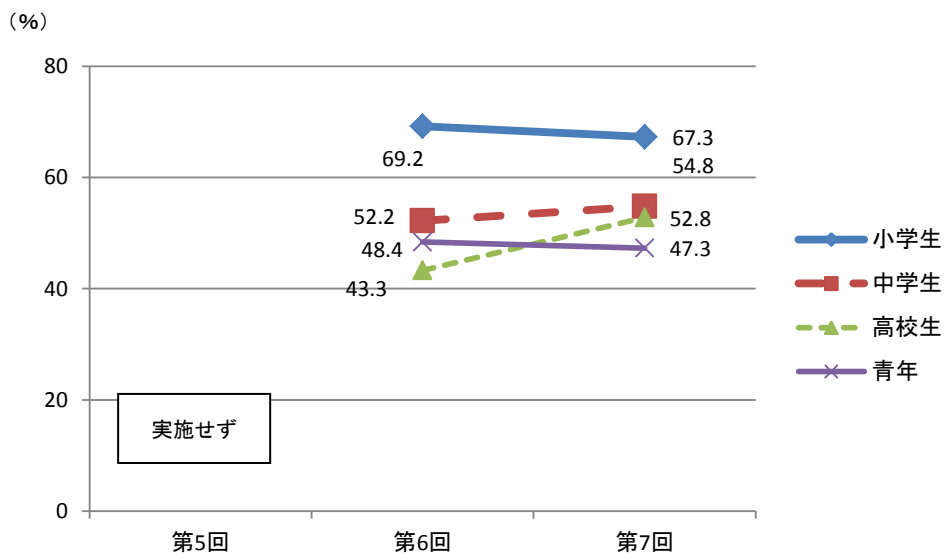


小学生、中学生、高校生、青年に、現在の生活の満足度を聞いたところ、小学生、中学生では「満足」が最も多く、小学生の45.0%、中学生の30.5%が回答しています。高校生、青年は「やや満足」が最も多く、高校生の32.7%、青年の27.5%が回答しています。

全体の傾向としては、「満足」「やや満足」を合わせた割合は、小学生の計67.3%から、学年が上がるにつれて減っていき、中学生では計54.8%、高校生では計52.8%、青年では計47.3%となっています。

### 過年度調査との比較

図 4.4.2 「満足」+「やや満足」



第6回調査と比較すると、「満足」と回答した人の割合は、高校生では、43.3%から52.8%へと9.5ポイント増加しています。

小学生、中学生、青年は横ばいとなっています。

(2) 悩みや心配ごと

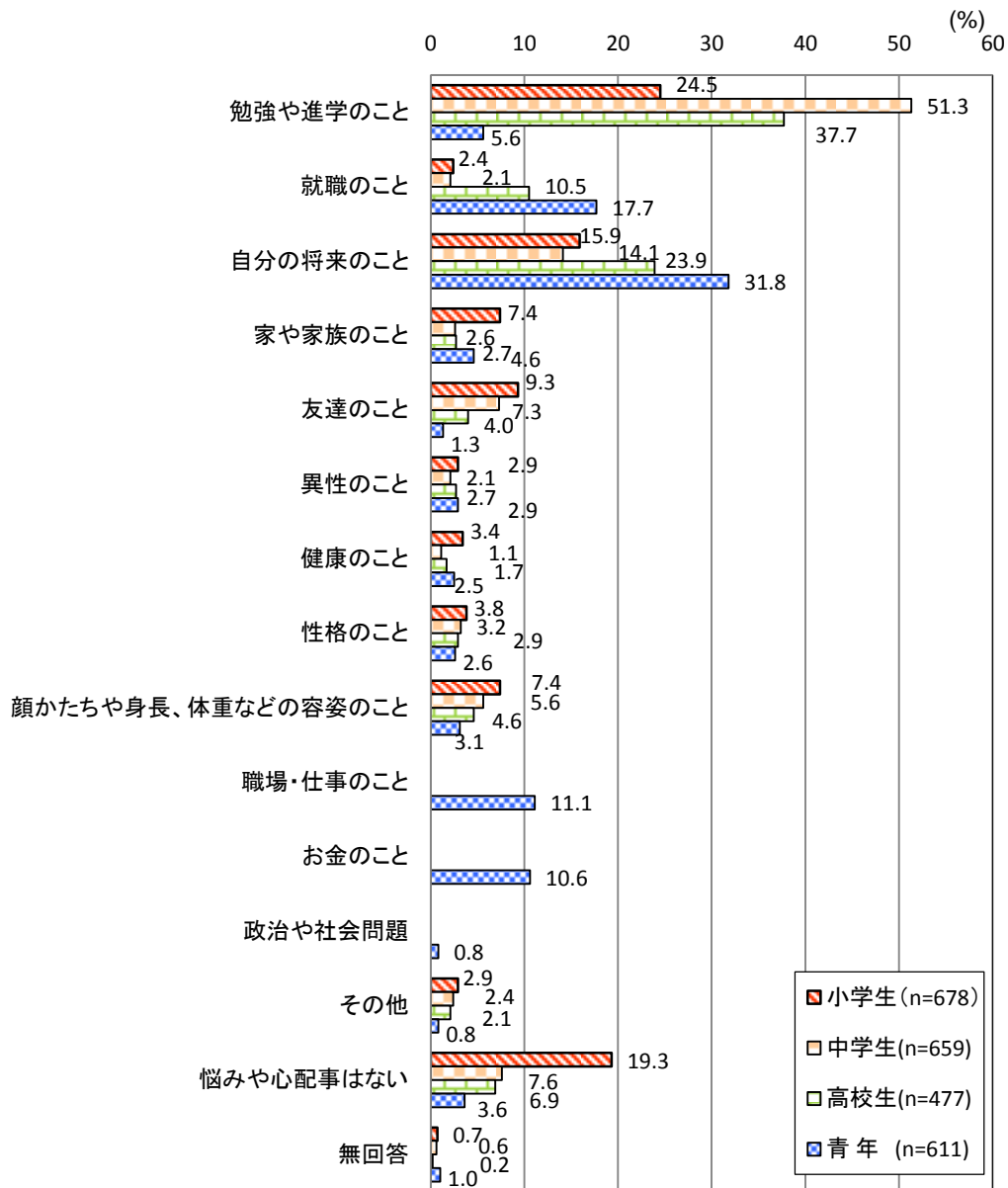
ア. 悩みや心配ごとで最も大きいもの(小学生、中学生、高校生、青年)

あなたの悩みや心配ごとの中で、最も大きいものを次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 勉強や進学のこと	2 就職のこと
3 自分の将来のこと	4 家や家族のこと
5 友達のこと	6 異性のこと
7 健康のこと	8 性格のこと
9 顔かたちや身長、体重などの容姿のこと	10 職場・仕事のこと
11 お金のこと	12 政治や社会問題
13 その他 ( )	
14 悩みや心配事はない	

※「職場・仕事のこと」「お金のこと」「政治や社会問題」については、「青年」のみに聴取

図 4.4.3



小学生、中学生、高校生、青年に、悩みや心配ごとについて聞いたところ、小学生、中学生、高校生は「勉強や進学のこと」が最も多く、それぞれ24.5%、51.3%、37.7%となっています。次いで小学生では「自分の将来のこと」(15.9%)、「友達のこと」(9.3%)、中学生では「自分の将来のこと」(14.1%)、「友達のこと」(7.3%)、高校生では「自分の将来のこと」(23.9%)、「就職のこと」(10.5%)、が多くなっています。

青年では、「自分の将来のこと」が31.8%で最も多く、次いで「就職のこと」(17.7%)、「職場・仕事のこと」(11.1%)となっています。

#### 過年度調査との比較

図 4.4.4 「勉強や進学のこと」

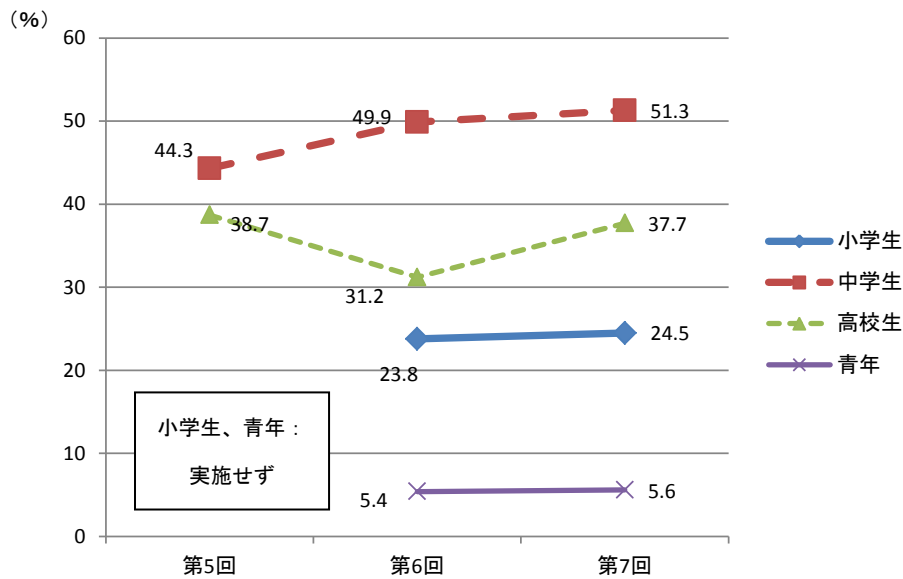
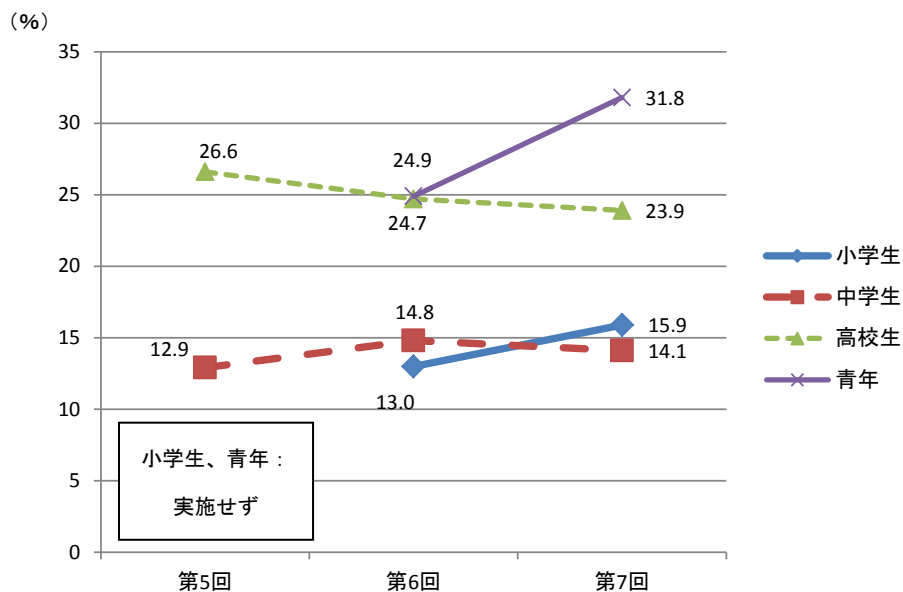


図 4.4.5 「自分の将来のこと」



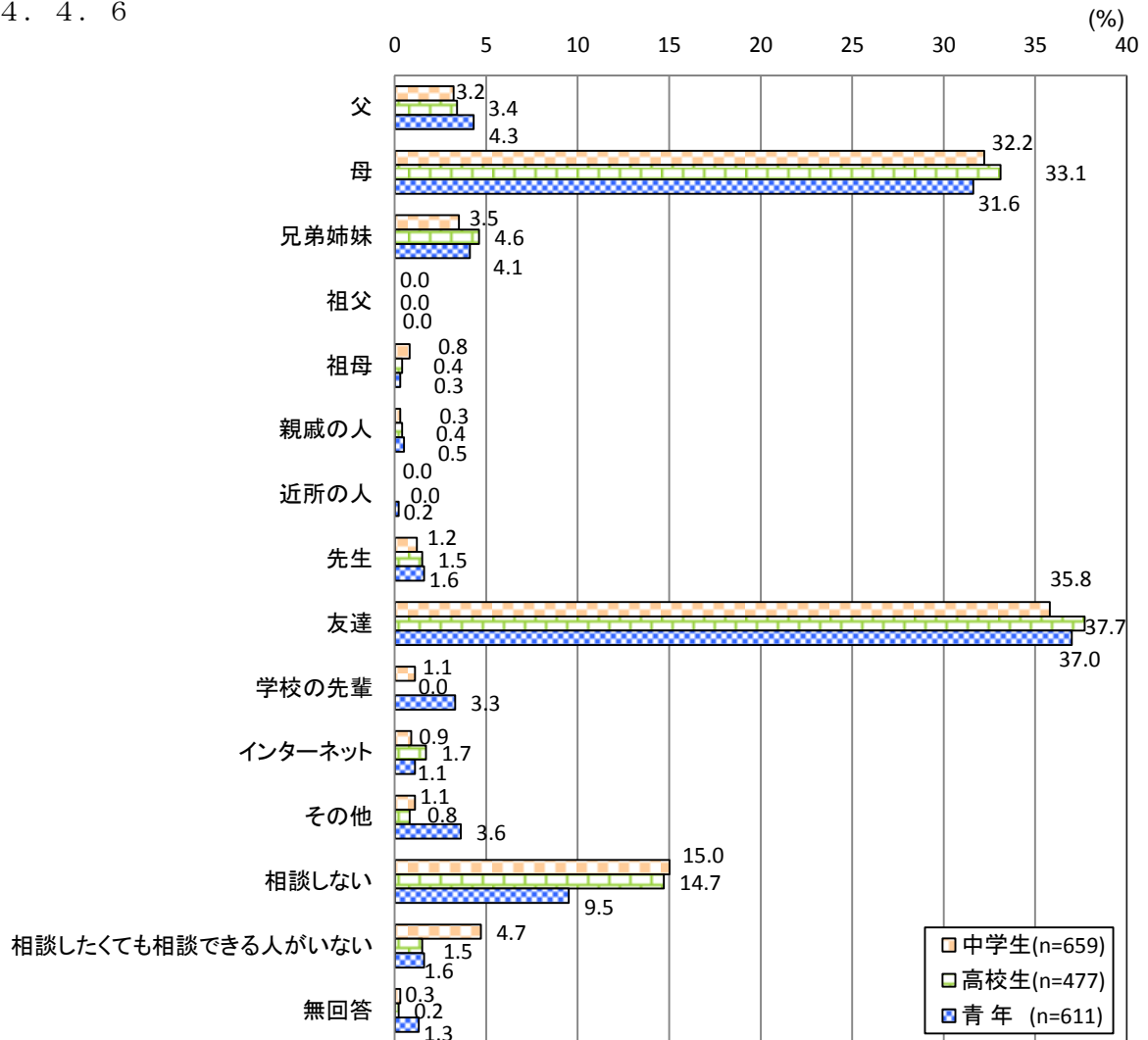
第5回、第6回調査と比較すると、中学生の「勉強や進学のこと」が第5回調査の44.3%から、第6回調査の49.9%、今回の51.3%へとやや増加傾向がみられます。青年では、「自分の将来のこと」が、第6回調査の24.9%から31.8%へと6.9ポイント増加しています。

イ. 悩みや心配ごとの相談相手（中学生、高校生、青年）

悩みや心配があったとき、あなたは誰に相談する機会が多いですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 父	2 母	3 兄弟姉妹
4 祖父	5 祖母	6 親戚の人
7 近所の人	8 先生	9 友達
10 学校の先輩	11 インターネット（コミュニティサイトや掲示板等）	
12 その他（		）
13 相談しない	14 相談したくても相談できる人がいない	

図 4. 4. 6



中学生、高校生、青年に、悩みや心配ごとの相談相手を聞いたところ、各年代ともに「友達」が最も多く、中学生では 35.8%、高校生では 37.7%、青年では 37.0%が回答しています。次いで、各年代ともに「母」が多く、中学生では 32.2%、高校生では 33.1%、青年では 31.6%が回答しています。

過年度調査との比較

図 4. 4. 7 「母」

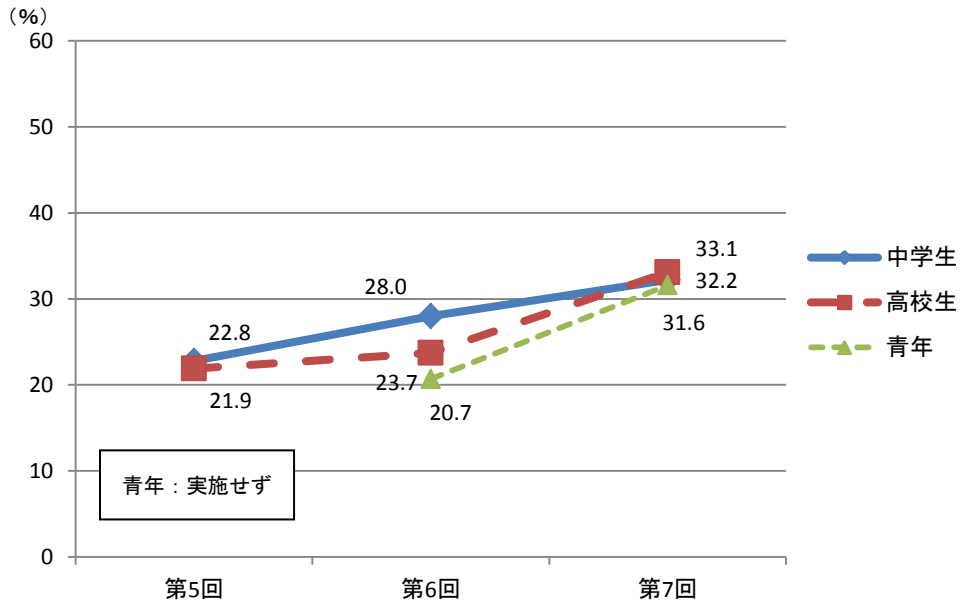
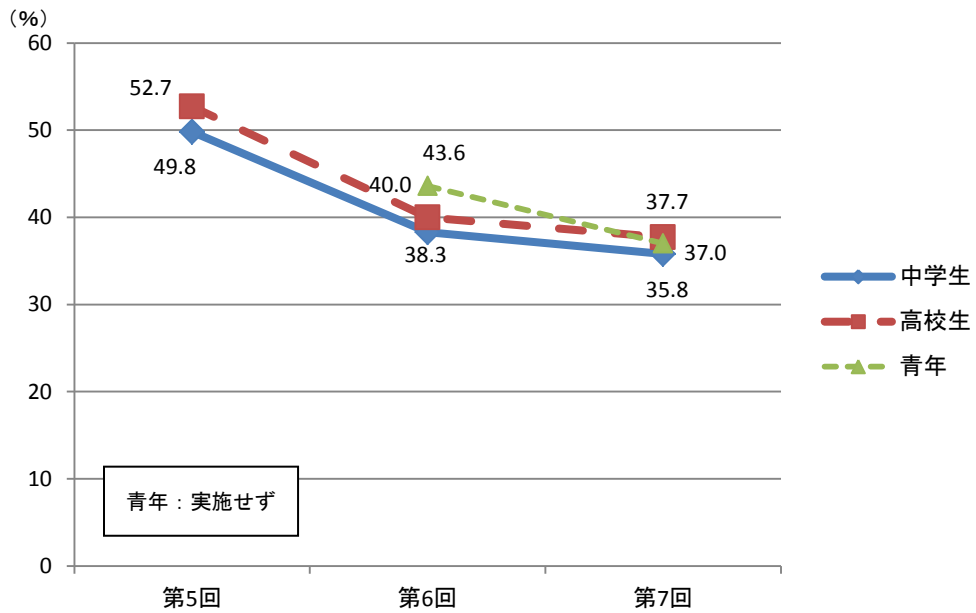


図 4. 4. 8 「友達」



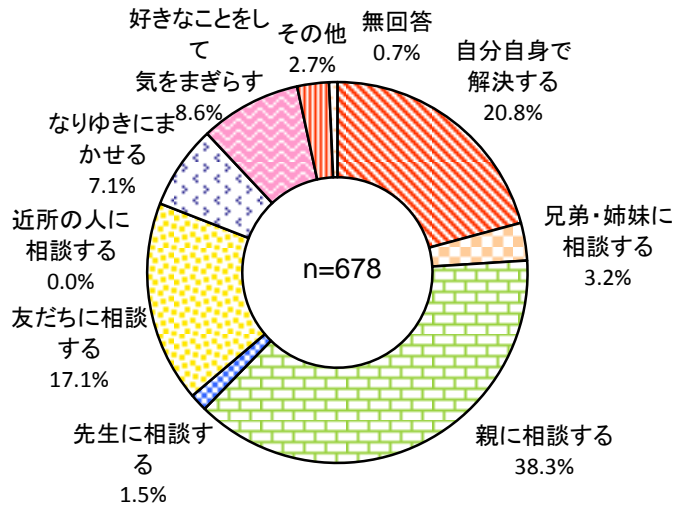
第5回、第6回調査と比較すると、各年代で「母」が増加し、「友達」が減少しています。「友達」は、中学生では第5回調査の49.8%から今回の35.8%へと14.0ポイント、高校生では第5回調査の52.7%から今回の37.7%へと15.0ポイント減少しています。

ウ. 困ったことや心配ごとへの対処方法（小学生）

あなたは、困ったことや心配ごとがあったとき、どうしますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 自分自身で解決する	2 兄弟・姉妹に相談する
3 親に相談する	4 先生に相談する
5 友だちに相談する	6 近所の人に相談する
7 なりゆきにまかせる（そのままにしておく）	8 好きなことをして気をまぎらす
9 その他	

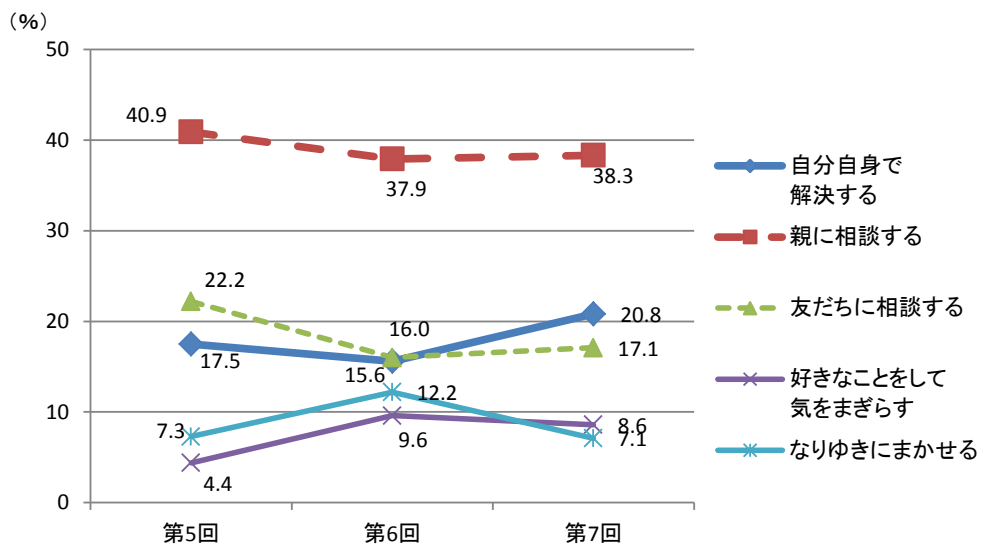
図 4. 4. 9



小学生に、困ったことや心配ごとがあった時の対処方法を聞いたところ、「親に相談する」が 38.3% と最も多く、次いで「自分自身で解決する」(20.8%)、「友だちに相談する」(17.1%)、「好きなことをして気をまぎらす」(8.6%) となっています。

過年度調査との比較

図 4. 4. 10



第5回、第6回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向が示されています。

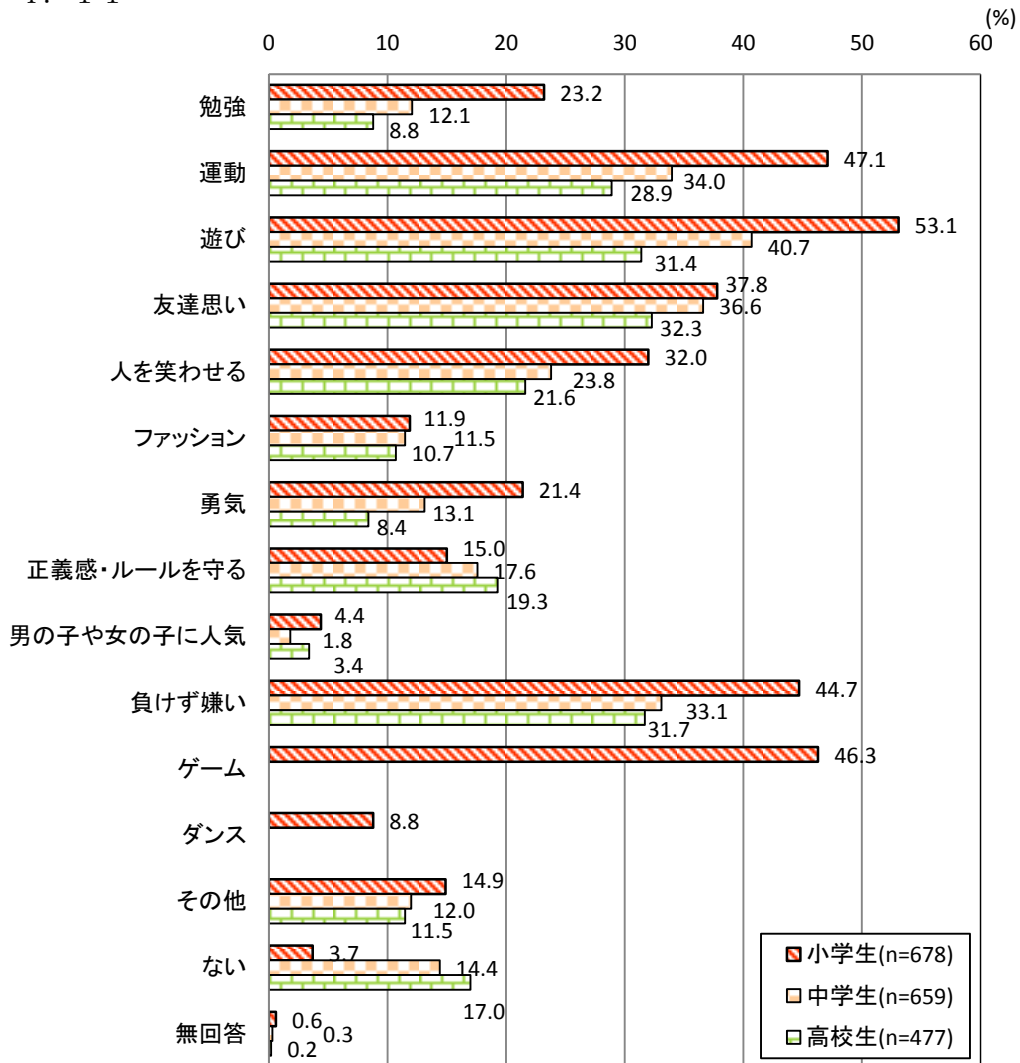
(3) 得意・自信のあるもの (小学生、中学生、高校生)

あなたには、得意なものや自信のあるものがありますか。あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

- |          |              |              |
|----------|--------------|--------------|
| 1 勉強     | 2 運動         | 3 遊び         |
| 4 友達思い   | 5 人を笑わせる     | 6 ファッション     |
| 7 勇気     | 8 正義感・ルールを守る | 9 男の子や女の子に人気 |
| 10 負けず嫌い | 11 ゲーム       | 12 ダンス       |
| 13 その他   | 14 ない        |              |

※「ゲーム」「ダンス」については、「小学生」のみに聴取

図 4.4.11



小学生、中学生、高校生に、得意なものや自信があるものを聞いたところ、小学生では、「遊び」が53.1%と最も多く、次いで「運動」(47.1%)、「ゲーム」(46.3%)、「負けず嫌い」(44.7%)、の回答が多くなっています。中学生では「遊び」(40.7%)、「友達思い」(36.6%)、「運動」(34.0%)、高校生では「友達思い」(32.3%)、「負けず嫌い」(31.7%)、「遊び」(31.4%)が多くなっています。

(4) 規範意識

ア. 規範意識 (小学生)

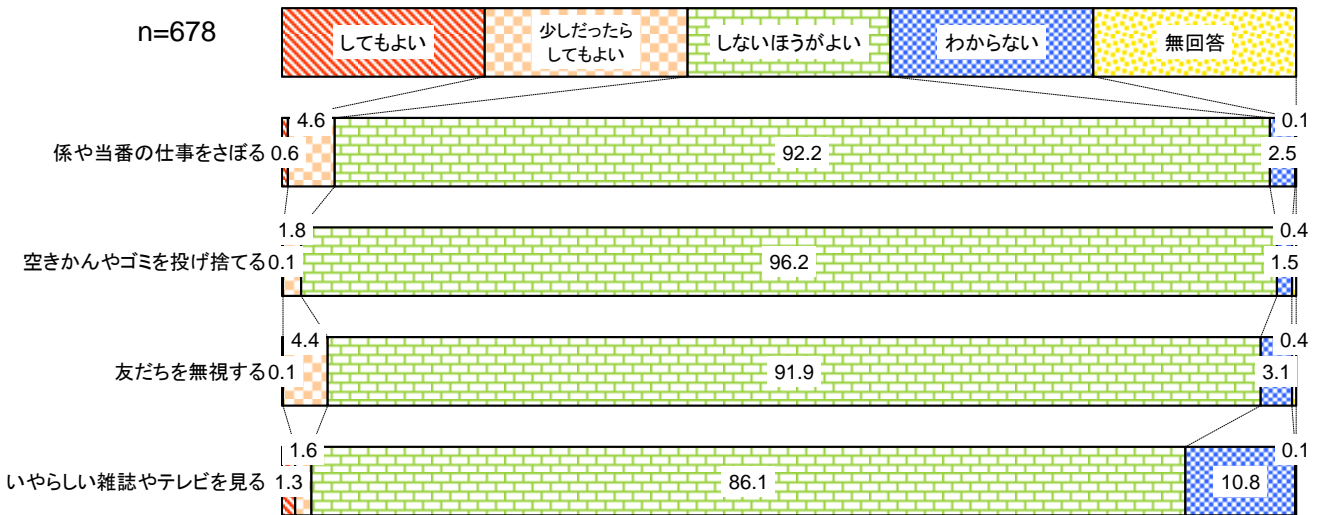
小学生が次のようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをそれぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

① 係や当番の仕事をさぼる                      ② 空きかんやゴミを投げ捨てる  
 ③ 友だちを無視する                              ④ いやらしい雑誌やテレビを見る

<①~④それぞれの選択肢>

1 してもよい      2 少しだったらしてもよい      3 しないほうがよい      4 わからない

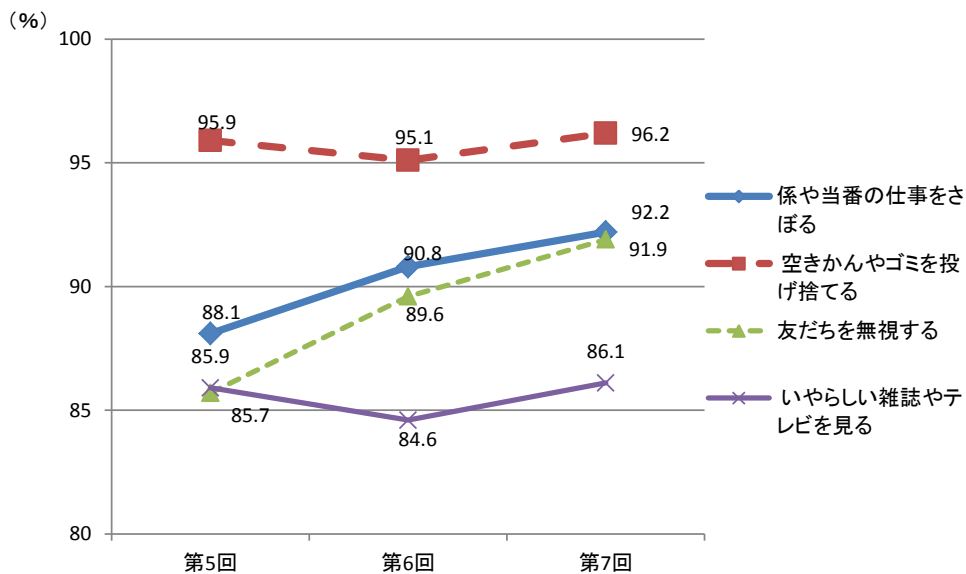
図 4.4.12



小学生に規範意識について聞いたところ、すべての項目で「しないほうがよい」が多く、9割近くという結果になっています。「いやらしい雑誌やテレビを見る」のみ、「わからない」が他の項目よりも多く、10.8%の人が回答しています。

過年度調査との比較

図 4.4.13 「しないほうがよい」



第5回、第6回調査と比較すると、各項目とも「しないほうがよい」が80%を超えており同様の傾向を示しています。特に、「友だちを無視する」の規範意識が高まっています。



イ. 規範意識（中学生）

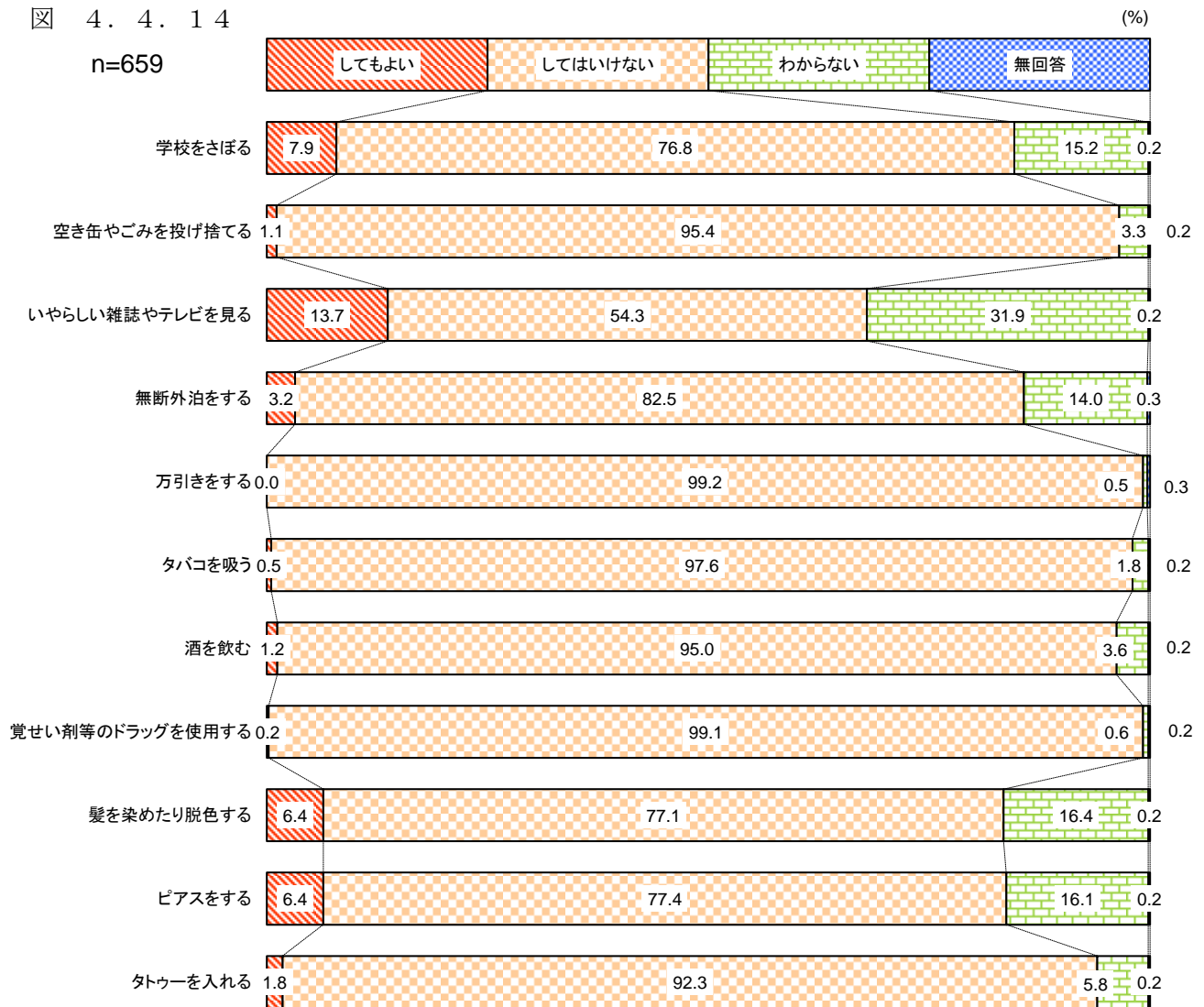
中学生・高校生が次のようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。次のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

- ① 学校をさぼる                      ② 空き缶やごみを投げ捨てる
- ③ いやらしい雑誌やテレビを見る                      ④ 無断外泊をする
- ⑤ 万引きをする                      ⑥ タバコを吸う
- ⑦ 酒を飲む                      ⑧ 覚せい剤等のドラッグ（薬物）を使用する
- ⑨ 髪を染めたり脱色したりする                      ⑩ ピアスをする
- ⑪ タトゥー（入れ墨）を入れる

<①～⑪それぞれの選択肢>

- 1 してもよい                      2 してはいけない                      3 わからない

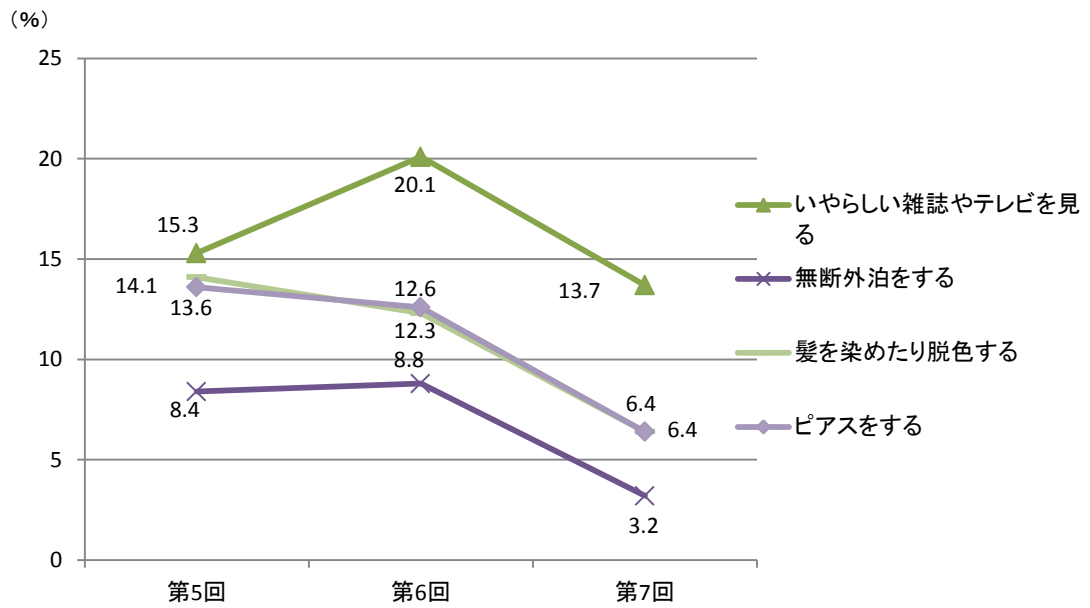
図 4. 4. 1 4



中学生に規範意識について聞いたところ、すべての項目で「してはいけない」が多くなっています。項目別には、「いやらしい雑誌やテレビを見る」が「してはいけない」と回答した割合が最も低く、「してもよい」が13.7%、「わからない」が31.9%となっています。次に「してはいけない」の割合が低いのは「髪を染めたり脱色する」(77.1%)、「ピアスをする」(77.4%)で、それぞれ「してもよい」が6.4%と同じで、「わからない」が16.4%、16.1%となっています。

## 過年度調査との比較

図 4.4.15 「してもよい」



第5回、第6回調査と比較すると、第6回調査で「してもよい」と回答した人が多かった「いやらしい雑誌やテレビを見る」「ピアスをする」「髪を染めたり脱色する」「無断外泊をする」の割合は、第6回調査から今回調査では減少しています。

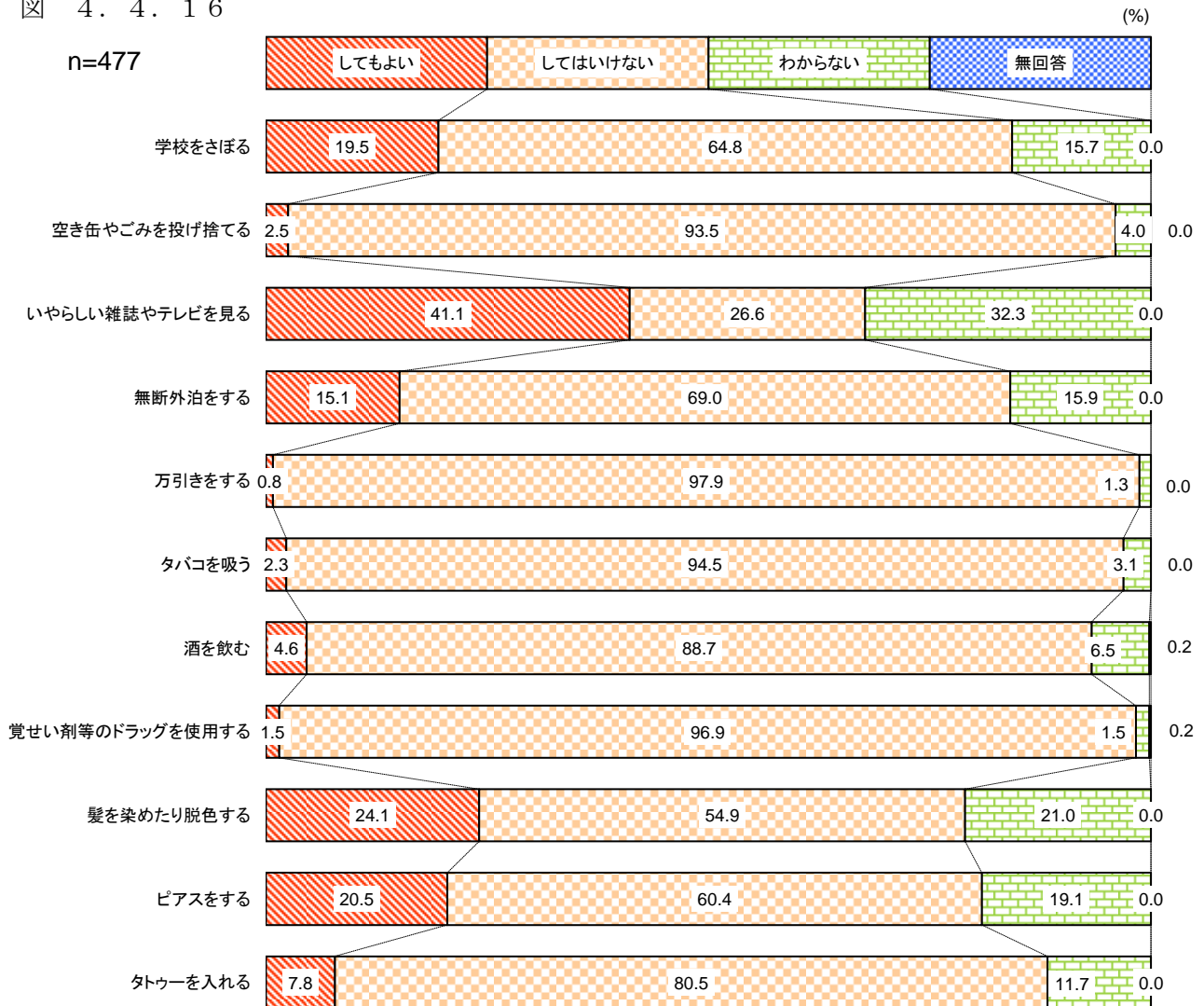
ウ. 規範意識 (高校生)

中学生・高校生が次のようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。次のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

① 学校をさぼる                      ② 空き缶やごみを投げ捨てる  
 ③ いやらしい雑誌やテレビを見る                      ④ 無断外泊をする  
 ⑤ 万引きをする                      ⑥ タバコを吸う  
 ⑦ 酒を飲む                      ⑧ 覚せい剤等のドラッグ (薬物) を使用する  
 ⑨ 髪を染めたり脱色したりする                      ⑩ ピアスをする  
 ⑪ タトゥー (入れ墨) を入れる

<①~⑪それぞれの選択肢>  
 1 してもよい                      2 してはいけない                      3 わからない

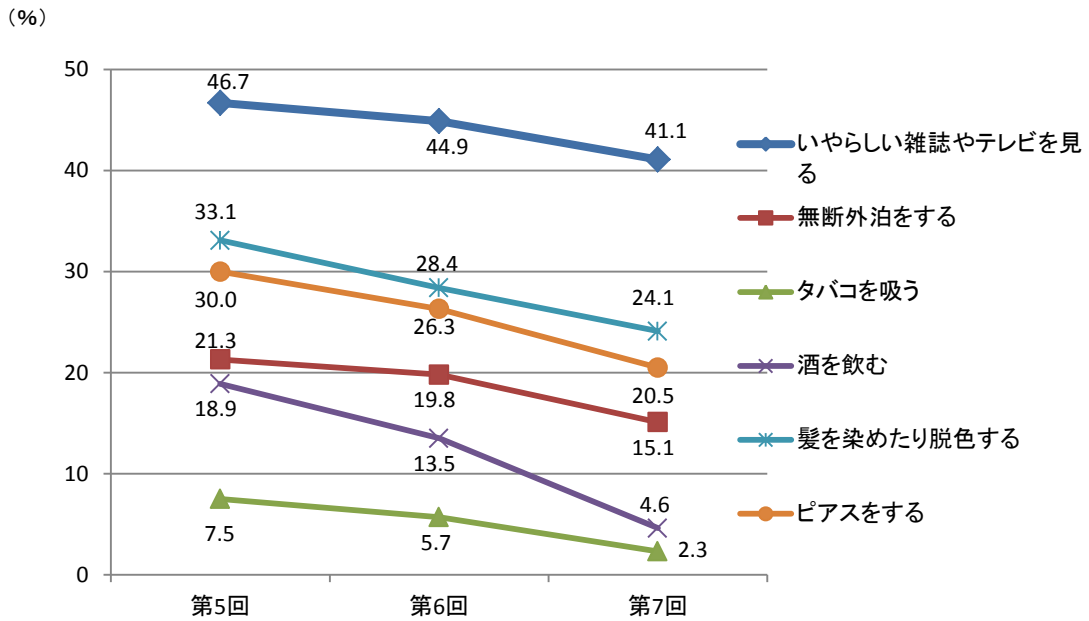
図 4. 4. 16



高校生に規範意識について聞いたところ、ほとんどの項目で「してはいけない」が多くなっています。項目別には、「いやらしい雑誌やテレビを見る」が最も「してはいけない」と回答した割合が低く、「してもよい」が41.1%、「わからない」が32.3%となっています。次に「してはいけない」の割合が低いのは「髪を染めたり脱色する」(54.9%)、「ピアスをする」(60.4%)で、それぞれ「してもよい」が24.1%、20.5%、「わからない」が21.0%、19.1%となっています。

## 過年度調査との比較

図 4.4.17 「してもよい」



第5回、第6回調査と比較すると、各項目で、「してもよい」と回答した割合は減少傾向が見られます。特に、「酒を飲む」は、第5回調査の18.9%から、今回調査では4.6%へと14.3ポイント減少しています。また、「髪を染めたり脱色する」は、第5回調査の33.1%から9.0ポイント、「ピアスをする」は第5回調査の30.0%から9.5ポイント減少しています。



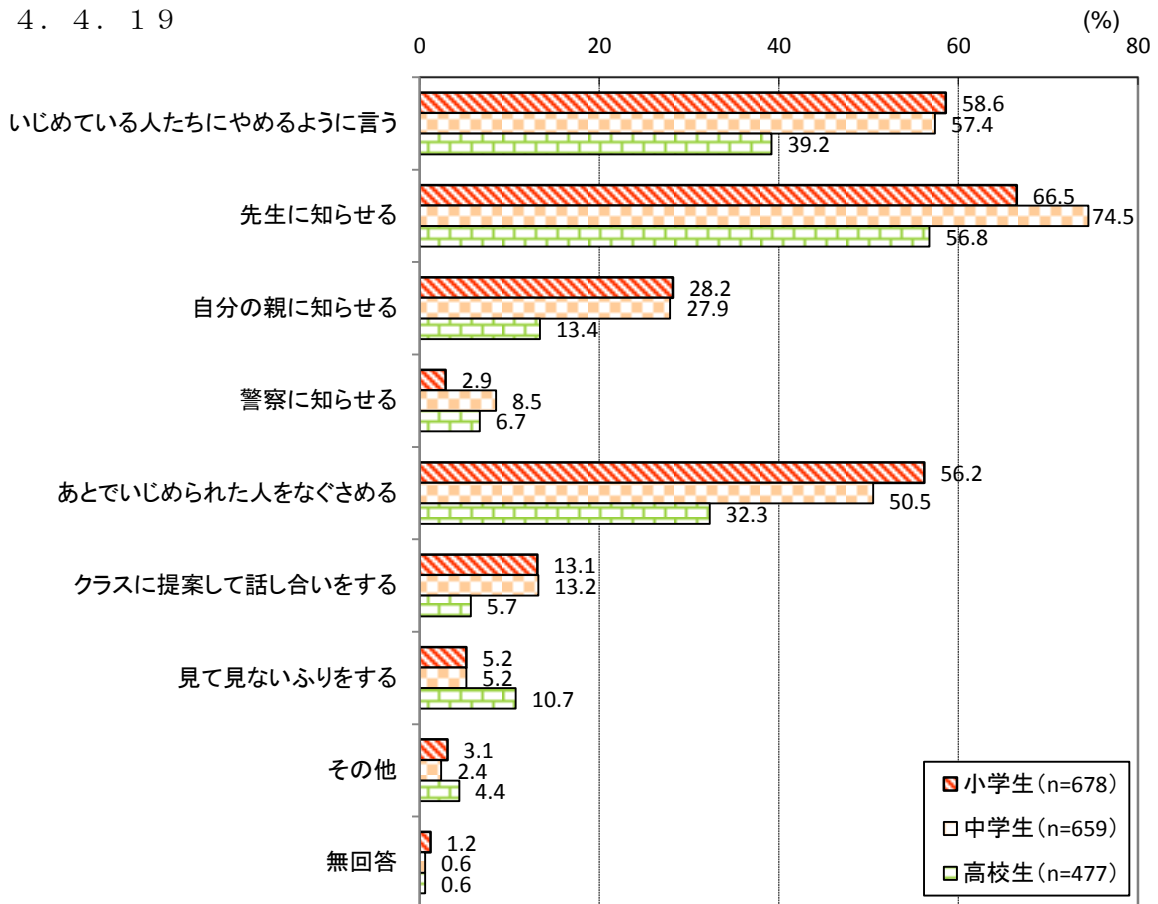
(5) いじめについて

ア. 誰かがいじめられた時の理想の対応（小学生、中学生、高校生）

誰かがいじめられているのを見たら、どうするのがよいと思いますか。1～8の中から、あなたがよいと思うことを全部選んで番号に○をつけてください。

1 いじめている人たちにやめるように言う	2 先生に知らせる
3 自分の親に知らせる	4 警察に知らせる
5 あとでいじめられた人をなぐさめる	6 クラスに提案して話し合いをする
7 見て見ないふりをする	8 その他（ ）

図 4. 4. 19



小学生、中学生、高校生に、誰かがいじめられているのを見たらどうするのがよいと思うかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生ともに、「先生に知らせる」が最も多く、それぞれ 66.5%、74.5%、56.8%となっています。次いで、「いじめている人たちにやめるように言う」（小学生：58.6%、中学生：57.4%、高校生：39.2%）、「あとでいじめられた人をなぐさめる」（小学生：56.2%、中学生：50.5%、高校生：32.3%）となっています。

## 過年度調査との比較

図 4.4.20 「あとでいじめられた人をなぐさめる」

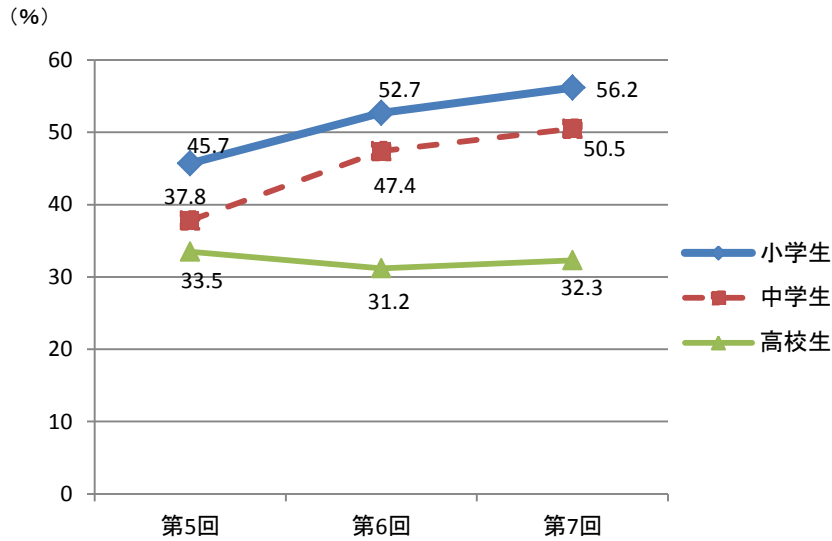
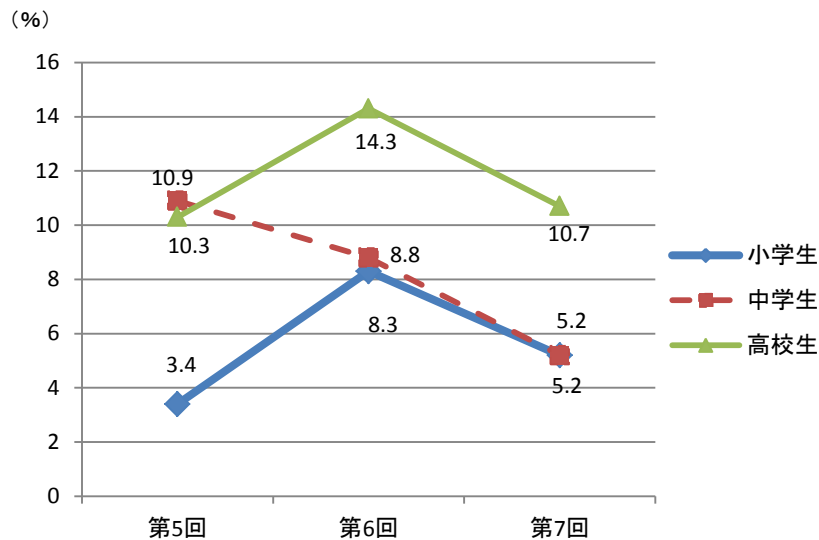


図 4.4.21 「見て見ないふりをする」

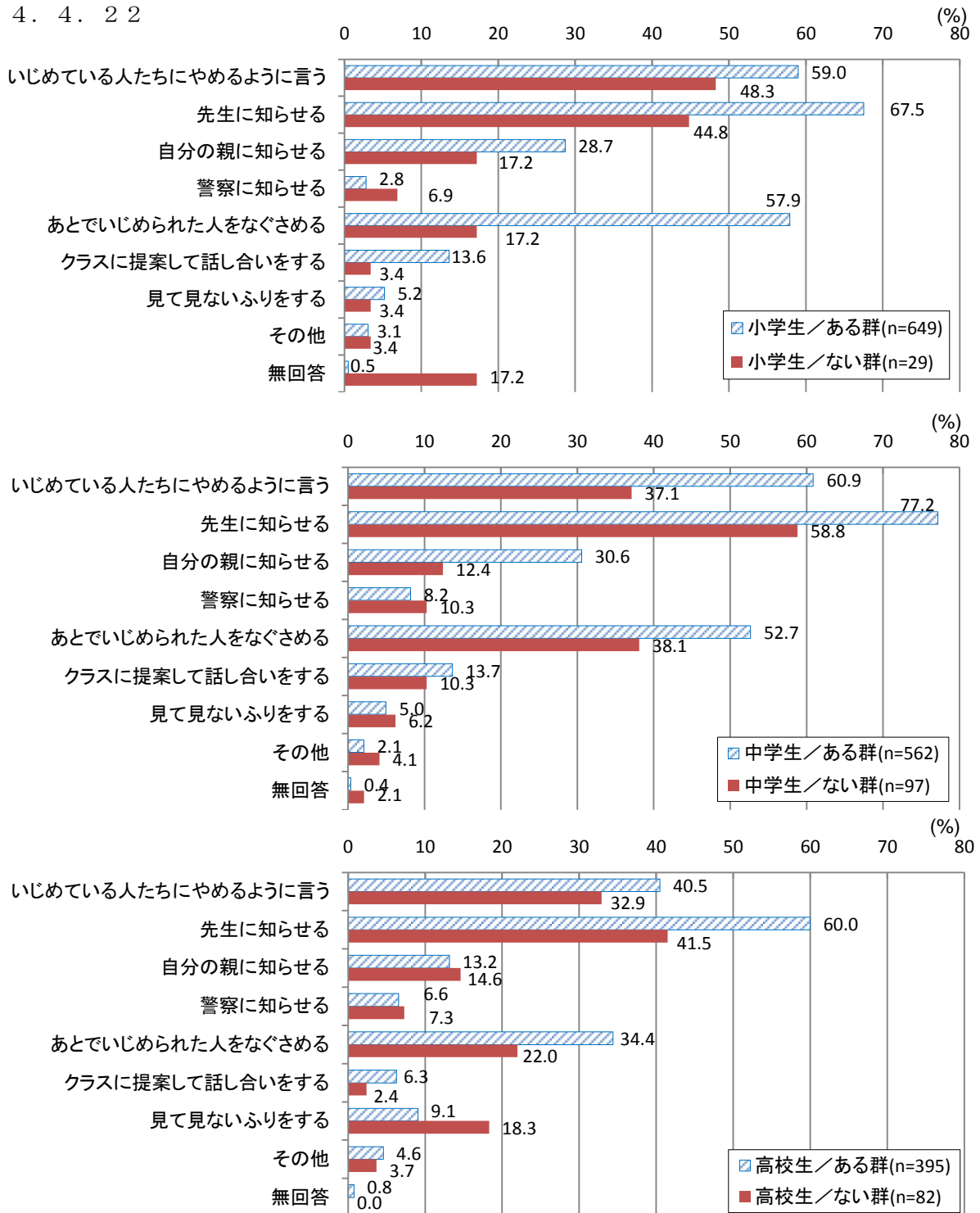


第5回、第6回調査と比較すると、「先生に知らせる」「いじめている人たちにやめるように言う」は横ばい傾向で、「あとでいじめられた人をなぐさめる」が、小学生、中学生において増加している傾向にあります。特に小学生では第5回調査の45.7%から、今回調査の56.2%へと10.5ポイント、中学生では、第5回調査の37.8%から今回調査の50.5%へ、12.7ポイント増加しています。

また、「見て見ないふりをする」は、各年代で第6回調査から減少しています。

得意なものや自信のあるものとの関係

図 4.4.22



小学生、中学生では、「得意なものや自信のあるもの」が「ある群」は、「いじめている人たちにやめるように言う」、「先生に知らせる」、「自分の親に知らせる」、「あとでいじめられたひとをなぐさめる」といった項目において、「ない群」よりも回答割合が高くなっています。「ない群」は、高校生において、「見て見ないふりをする」の回答割合が、「ある群」よりも高くなっています。

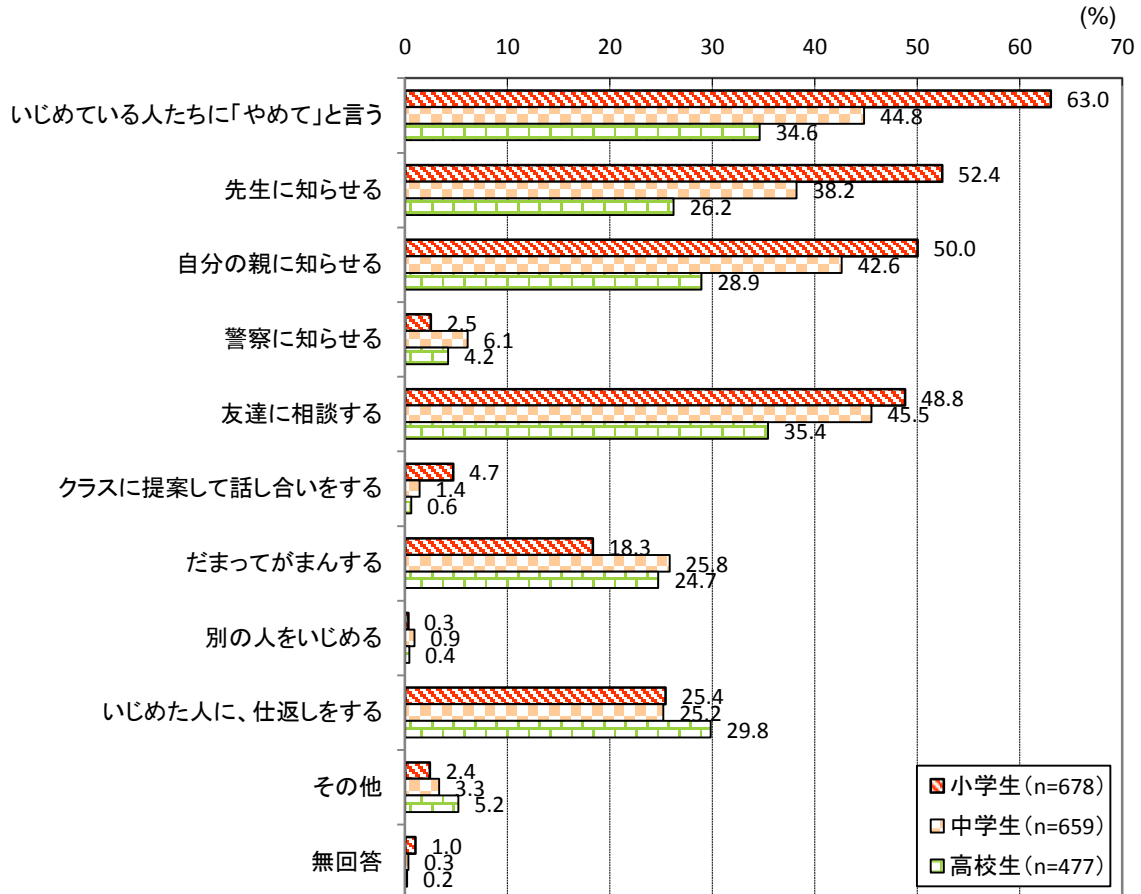


イ. 自分がいじめられた時の実際の対応（小学生、中学生、高校生）

自分がいじめられたら、どうしますか。1～10の中から、あなたがしそうなことを全部選んで番号に○をつけてください。

1 いじめている人たちに「やめて」と言う	2 先生に知らせる
3 自分の親に知らせる	4 警察に知らせる
5 友達に相談する	6 クラスに提案して話し合いをする
7 だまっていがまんする	8 別の人をいじめる
9 いじめた人に、仕返しをする	10 その他（ ）

図 4. 4. 2 3



小学生、中学生、高校生に、自分がいじめられた時の実際の対応を聞いたところ、小学生では「いじめている人たちに『やめて』と言う」が 63.0%と最も多く、次いで「先生に知らせる」(52.4%)、「自分の親に知らせる」(50.0%)と続いています。

中学生、高校生では「友達に相談する」が最も多く(中学生：45.5%、高校生：35.4%)、次いで中学生は「いじめている人たちに『やめて』と言う」(44.8%)、「自分の親に知らせる」(42.6%)、高校生は「いじめている人たちに『やめて』と言う」(34.6%)、「いじめた人に、仕返しをする」(29.8%)と続いています。

過年度調査との比較

図 4. 4. 24 「いじめている人たちに『やめて』と言う」

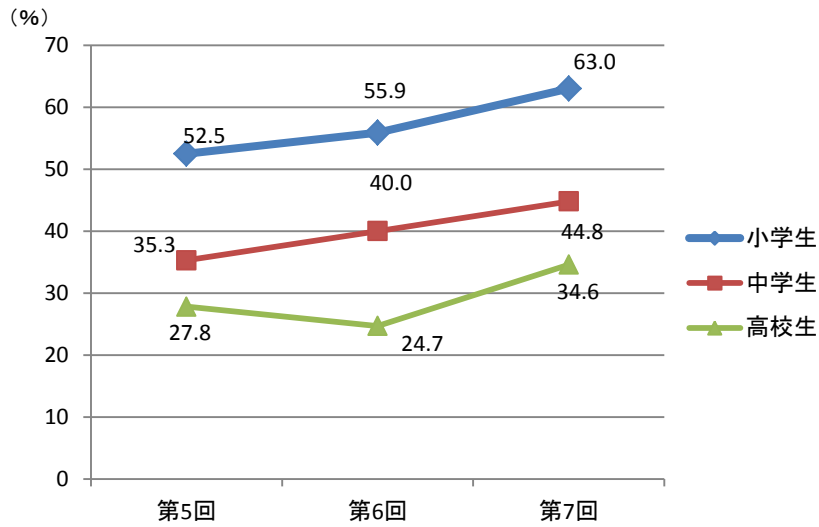
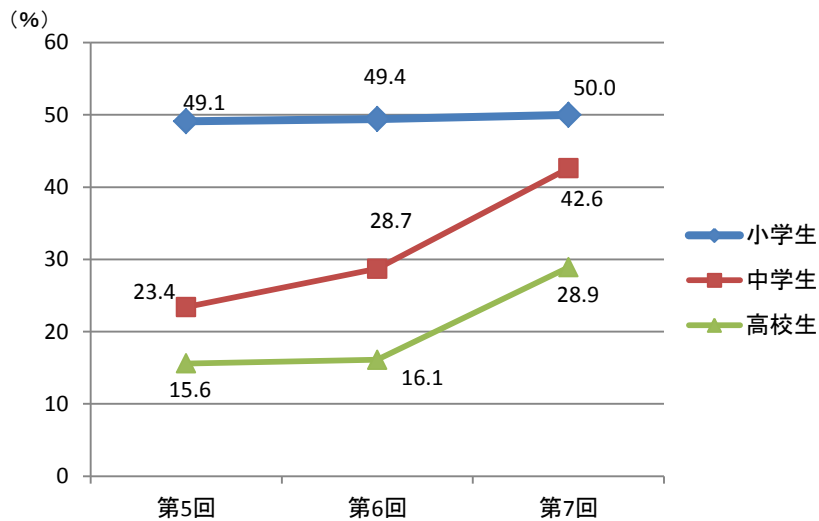


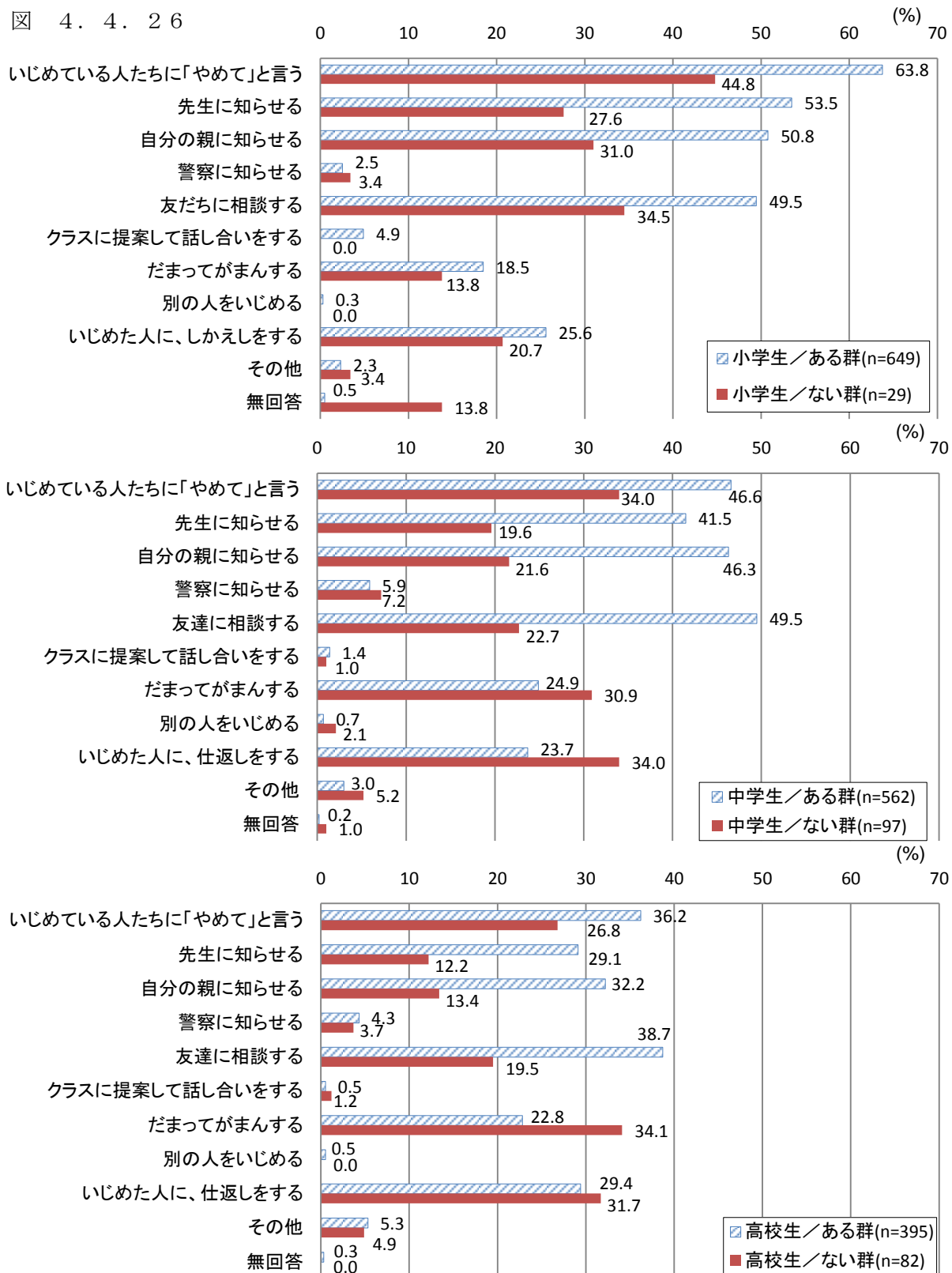
図 4. 4. 25 「自分の親に知らせる」



第5回、第6回調査と比較すると、小学生では「いじめている人たちに『やめて』と言う」が第5回調査の52.5%から今回の63.0%へと10.5ポイント増加しています。中学生、高校生では、「自分の親に知らせる」の増加が大きく、それぞれ19.2ポイント、13.3ポイント増加しています。

得意なものや自信のあるものとの関係

図 4. 4. 26



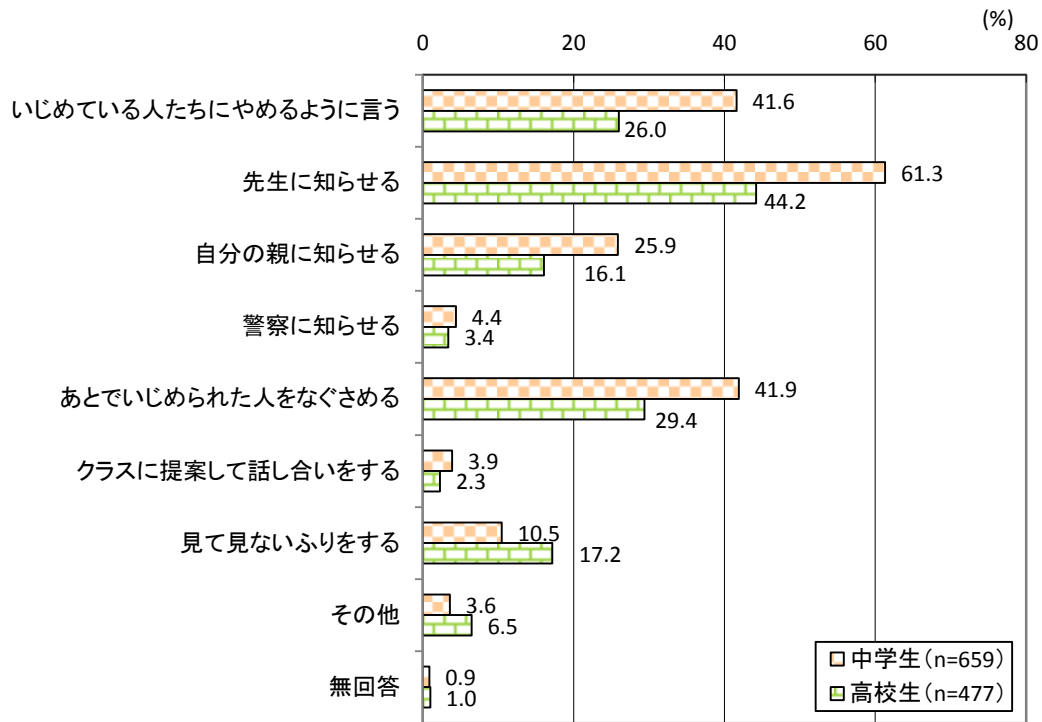
小学生、中学生、高校生の全てで、「得意なものや自信のあるもの」が「ある群」は、「いじめている人たちに「やめて」と言う」、「先生に知らせる」、「自分の親に知らせる」、「友達に相談する」といった項目において、「ない群」よりも回答割合が高くなっています。「ない群」は、中学生、高校生において、「だまっpegまんする」、「いじめた人に、仕返しをする」の回答割合が、「ある群」よりも高くなっています。

ウ. 誰かがいじめられた時の実際の対応（中学生、高校生）

実際に誰かがいじめられているのを見たらどうしますか。1～8の中から、あなたがすると思うことを全部選んで番号に○をつけてください。

1 いじめている人たちにやめるように言う	2 先生に知らせる
3 自分の親に知らせる	4 警察に知らせる
5 あとでいじめられた人をなぐさめる	6 クラスに提案して話し合いをする
7 見て見ないふりをする	8 その他（ ）

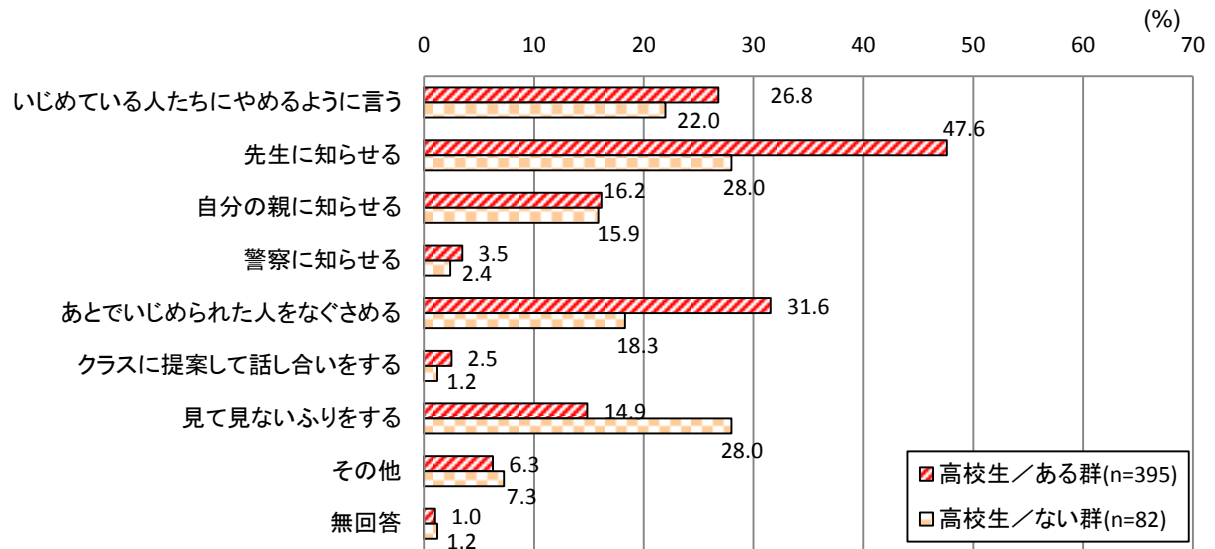
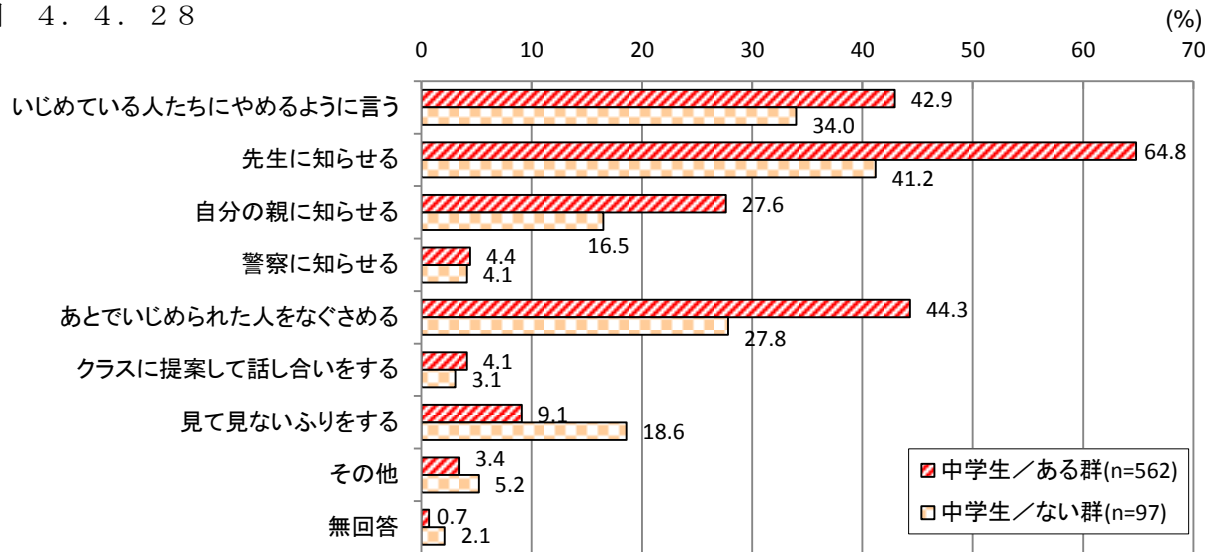
図 4. 4. 27



中学生、高校生に、誰かがいじめられた時に実際にすると思われる対応を聞いたところ、中学生、高校生ともに「先生に知らせる」が最も多く、それぞれ 61.3%、44.2%となっています。次いで、「あとでいじめられた人をなぐさめる」（中学生：41.9%、高校生：29.4%）、「いじめている人たちにやめるように言う」（中学生：41.6%、高校生：26.0%）と続いています。

得意なものや自信のあるものとの関係

図 4. 4. 2 8



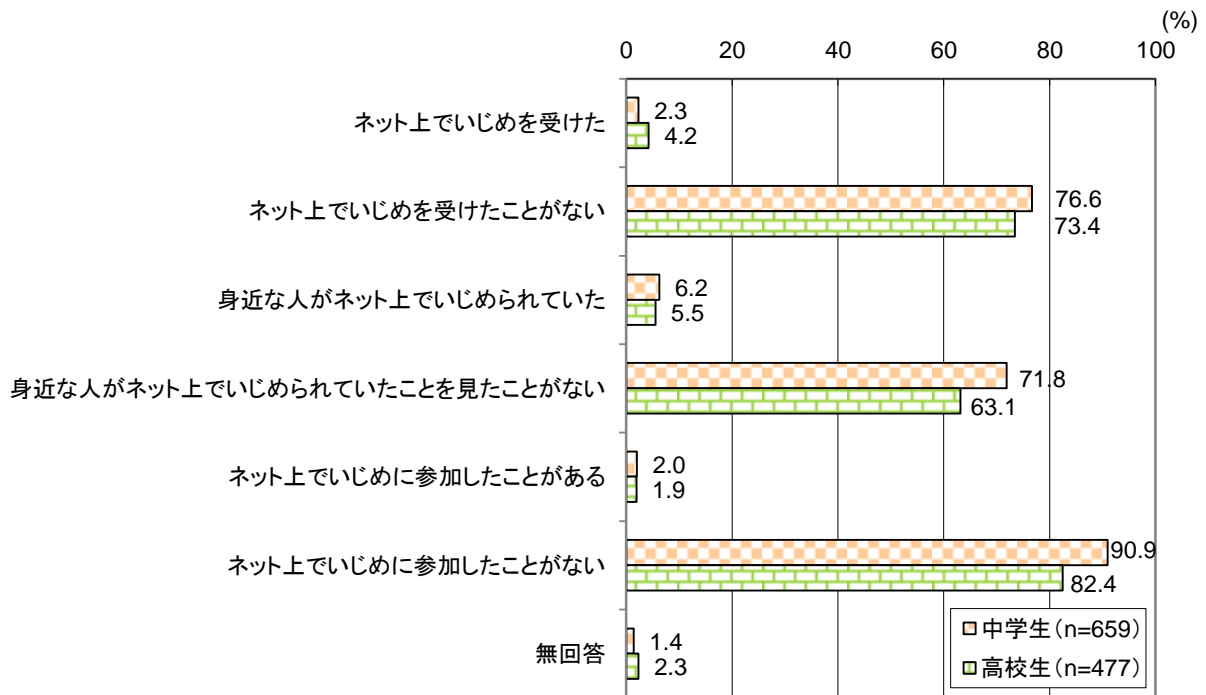
中学生、高校生ともに、「先生に知らせる」において、「得意なものや自信のあるもの」が「ある群」が「ない群」を約 20 ポイント上回っています。一方、「見て見ないふりをする」は、中学生、高校生ともに、「ない群」が「ある群」を上回っており、特に高校生では、「ある群」：14.9%に対し、「ない群」：28.0%と 10 ポイント以上の差がみられています。

エ. インターネット上におけるいじめについて（中学生、高校生）

ネット上におけるいじめを自分が受けてり他人が受けていたことを知ったことがありますか。また、逆にネット上におけるいじめに参加したことがありますか。1～6の中から、あなたが経験したことを全部選んで番号に○をつけてください。

- 1 ネット上でいじめを受けた
- 2 ネット上でいじめを受けたことがない
- 3 身近な人がネット上でいじめられていた
- 4 身近な人がネット上でいじめられていたことを見たことがない
- 5 ネット上でいじめに参加したことがある
- 6 ネット上でいじめに参加したことがない

図 4. 4. 2 9



中学生、高校生に、インターネット上でいじめを受けた経験や、身近な人がいじめられていたことを見た経験について聞いたところ、「ネット上でいじめを受けた」は中学生で 2.3%、高校生で 4.2%が回答しています。

また、「身近な人がネット上でいじめられていた」は中学生の 6.2%、高校生の 5.5%、「ネット上でいじめに参加したことがある」は中学生の 2.0%、高校生の 1.9%となっています。

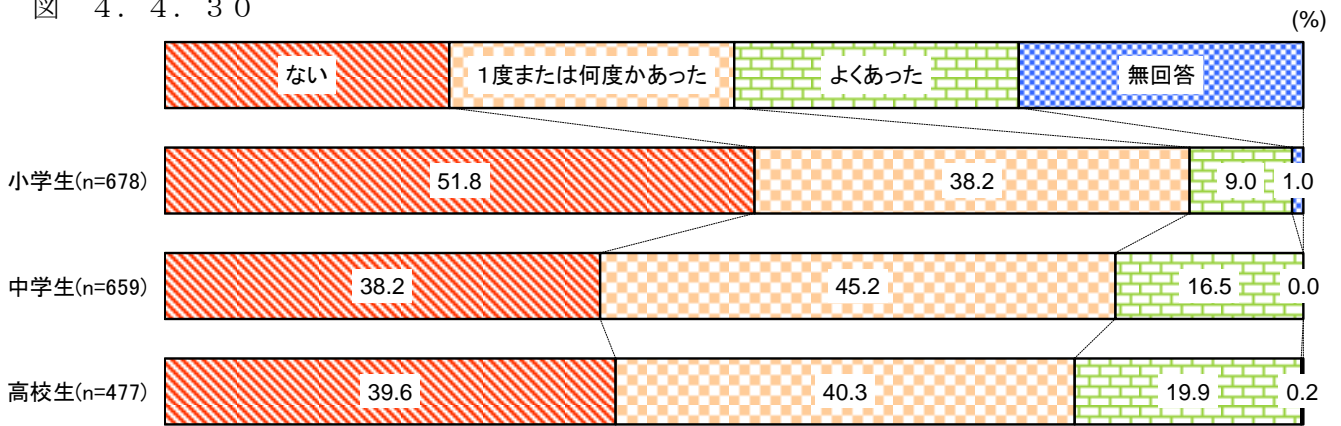
(6) 不登校気分とその理由

ア. 学校に行きたくなかったこと (小学生、中学生、高校生)

今の学年になって、病気やけがなどの理由がないのに学校に行きたくなかったことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 ない                      2 1度または何度かあった                      3 よくあった

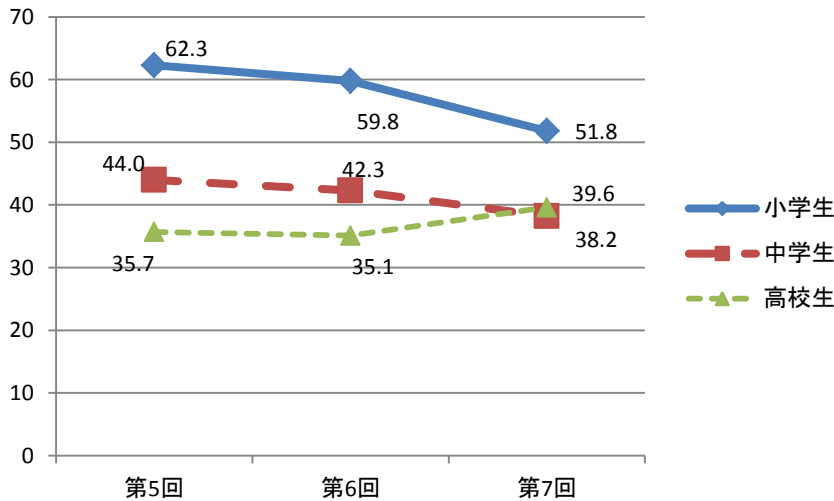
図 4. 4. 3 0



小学生、中学生、高校生に、学校に行きたくなかったことがあったかを聞いたところ、「1度または何度かあった」と「よくあった」を合計した割合は、小学生で計 47.2%、中学生で計 61.7%、高校生で計 60.2%となっています。

過年度調査との比較

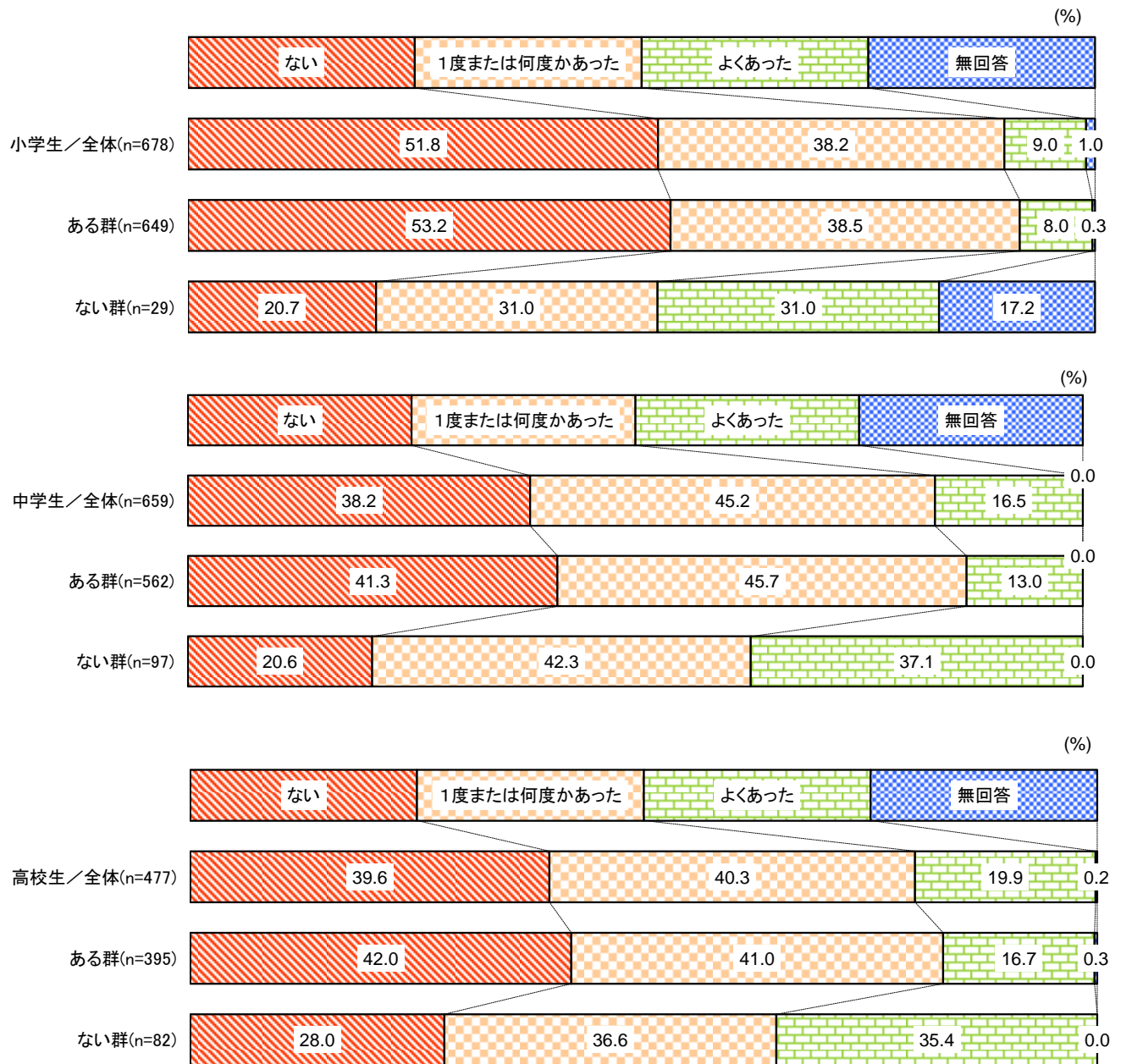
図 4. 4. 3 1 「ない」 (%)



第5回、第6回調査と比較すると、「ない」と回答した人の割合は、小学生、中学生では減少傾向が見られ、小学生は第5回調査の 62.3%から、今回調査では 51.8%へと 10.5 ポイント減少しています。中学生では、第5回調査の 44.0%から、今回調査の 38.2%へと、5.8 ポイント減少しています。

得意なものや自信のあるものとの関係

図 4.4.32



小学生、中学生、高校生の全てで、「得意なものや自信のあるもの」が「ない群」は、「ある群」よりも、「1度または何度かあった」、「よくあった」を合計した割合が高くなっています。

また、「よくあった」の回答割合を比較すると、小学生では、「ある群」：8.0%、「ない群」：31.0%、中学生では、「ある群」：13.0%、「ない群」：37.1%、高校生では、「ある群」：16.7%、「ない群」：35.4%となっています。



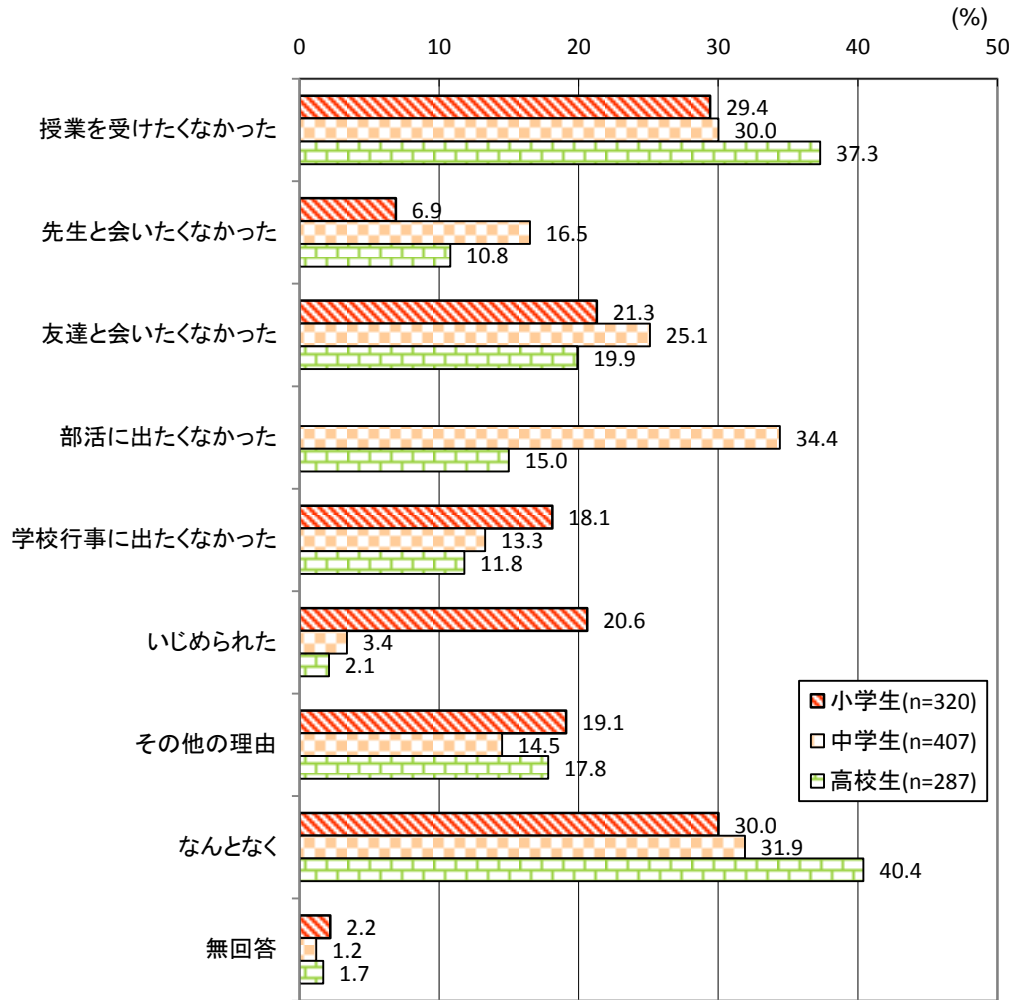
イ. 学校に行きたくなかった理由（小学生、中学生、高校生）

前問で、2、3のいずれかに○をつけた人にお聞きします。それは、どのような理由からですか。次の1～8の中から、あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

- 1 授業を受けたくなかった
- 2 先生と会いたくなかった
- 3 友達と会いたくなかった
- 4 部活に出たくなかった
- 5 学校行事に出たくなかった
- 6 いじめられた
- 7 その他の理由（
- 8 なんとなく

※「部活に出たくなかった」は「中学生」「高校生」のみに聴取

図 4. 4. 3 3



小学生、中学生、高校生に、学校に行きたくなかった理由について聞いたところ、小学生は「なんとなく」(30.0%)、「授業を受けたくなかった」(29.4%)、「友達と会いたくなかった」(21.3%)の順に多くなっています。中学生では、「部活に出たくなかった」(34.4%)、「なんとなく」(31.9%)、「授業を受けたくなかった」(30.0%)、高校生では、「なんとなく」(40.4%)、「授業を受けたくなかった」(37.3%)、「友達と会いたくなかった」(19.9%)の順に多くなっています。

過年度調査との比較

図 4.4.34 「いじめられた」

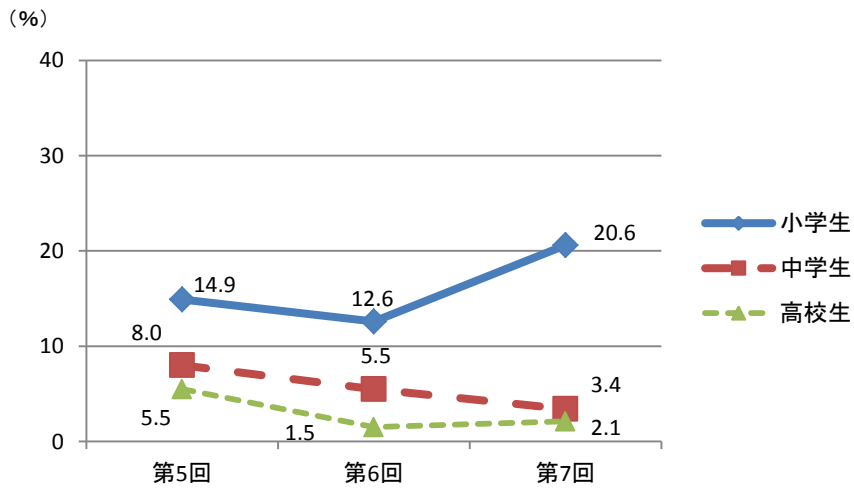
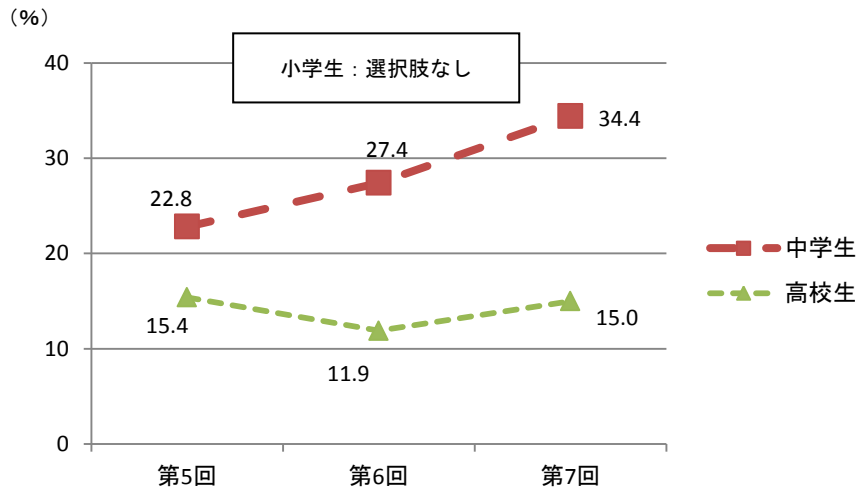


図 4.4.35 「部活に出たくなかった」



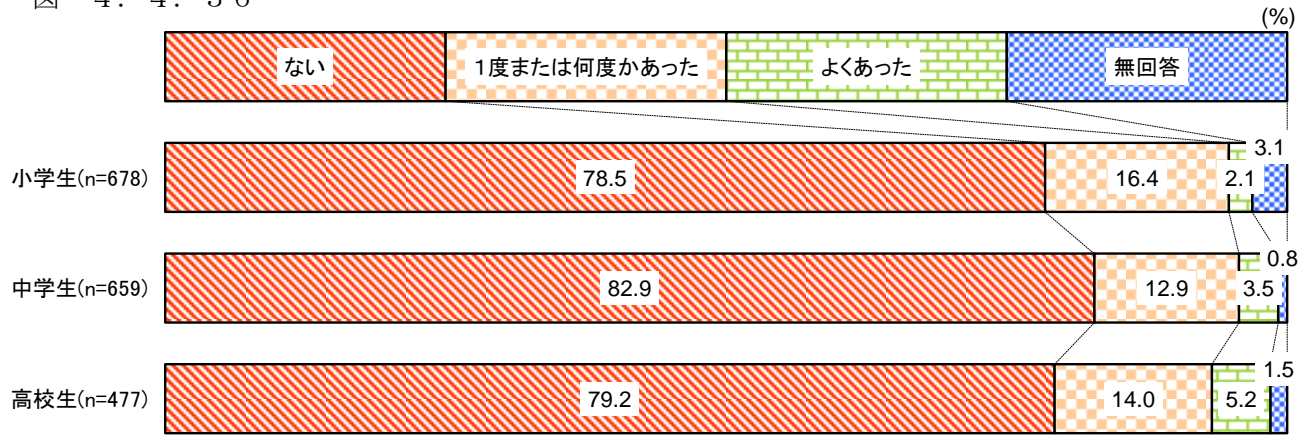
第5回、第6回調査と比較してみると、小学生では、「いじめられた」が第6回調査の12.6%から、今回調査では20.6%へと、8.0ポイント増加しています。中学生では、「部活に出たくなかった」が増加傾向にあり、第5回調査の22.8%から、今回調査では34.4%へと、11.6ポイント増加しています。

ウ. 学校を休んだこと（小学生、中学生、高校生）

今の学年になって、病気やけがなどの理由以外で、学校に行きたくないという理由で学校を休んだことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 ない                      2 1度または何度かあった                      3 よくあった

図 4. 4. 3 6



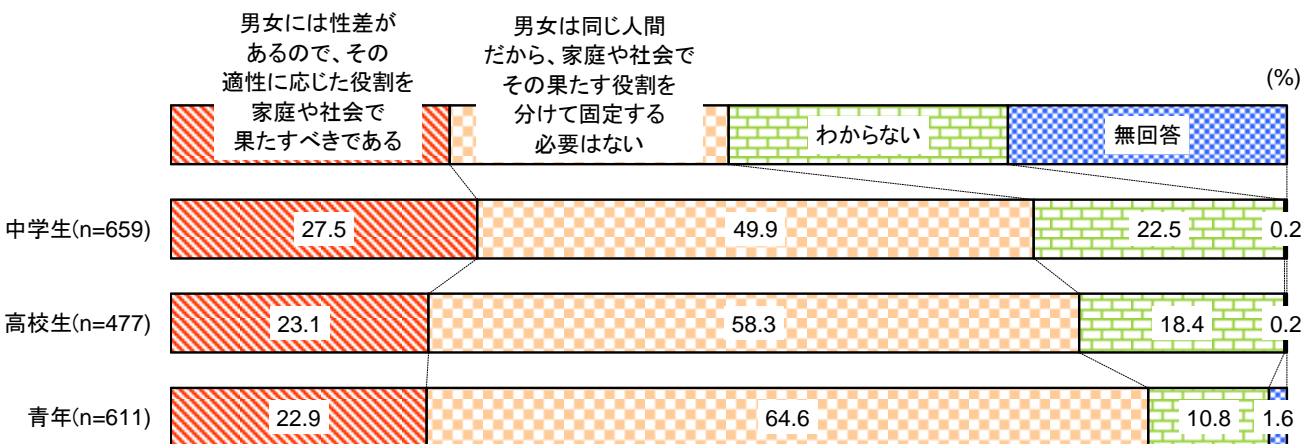
小学生、中学生、高校生に、病気やけがなどの理由以外で学校を休んだことがあるかを聞いたところ、各年代で「ない」が最も多く、それぞれ 78.5%、82.9%、79.2%となっています。「1度または何度かあった」「よくあった」の合計では、小学生で計 18.5%、中学生で計 16.4%、高校生で計 19.2%となっています。

(7) 男女が家庭や社会で果たす役割についての考え（中学生、高校生、青年）

あなたは、男女が家庭や社会で果たす役割についてどう考えていますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1 男女には性差があるので、その適性に合った役割を家庭や社会で果たすべきである  
 2 男女は同じ人間だから、家庭や社会でその果たす役割を分けて固定する必要はない  
 3 わからない

図 4. 4. 3 7



中学生、高校生、青年に、男女が家庭で果たす役割について聞いたところ、各年代とも「男女は同じ人間だから、家庭や社会でその果たす役割を分けて固定する必要はない」が最も多く、それぞれ 49.9%、58.3%、64.6%となっています。

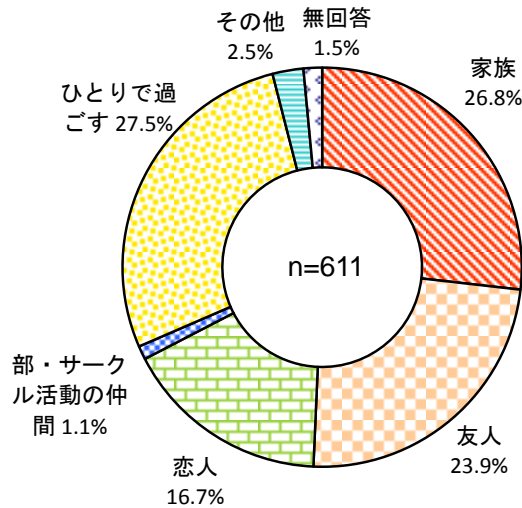
(8) 休日の過ごし方

ア. 休日と一緒に過ごす人（青年）

休日は誰と過ごすことが多いですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 家族	2 友人	3 恋人
4 部・サークル活動の仲間	5 ひとりで過ごす	6 その他（ ）

図 4. 4. 38



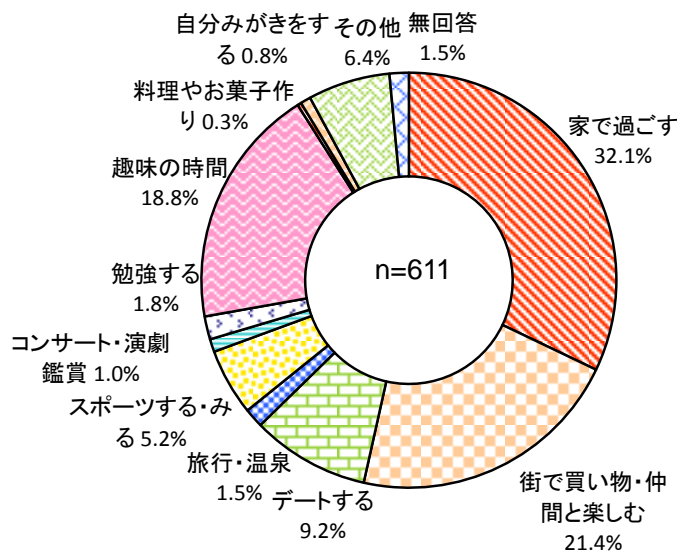
青年に、休日と一緒に過ごす人を聞いたところ、「ひとりで過ごす」が最も多く、27.5%が回答しています。次いで「家族」(26.8%)、「友人」(23.9%)、「恋人」(16.7%)と続いています。

イ. 休日を過ごす方法（青年）

休日をどのように過ごすことが多いですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 家で過ごす	2 街で買い物・仲間と楽しむ	3 デートする
4 旅行・温泉	5 スポーツする・みる	6 コンサート・演劇鑑賞
7 勉強する	8 趣味の時間	9 料理やお菓子作り
10 自分みがきをする	11 その他（ ）	

図 4. 4. 39



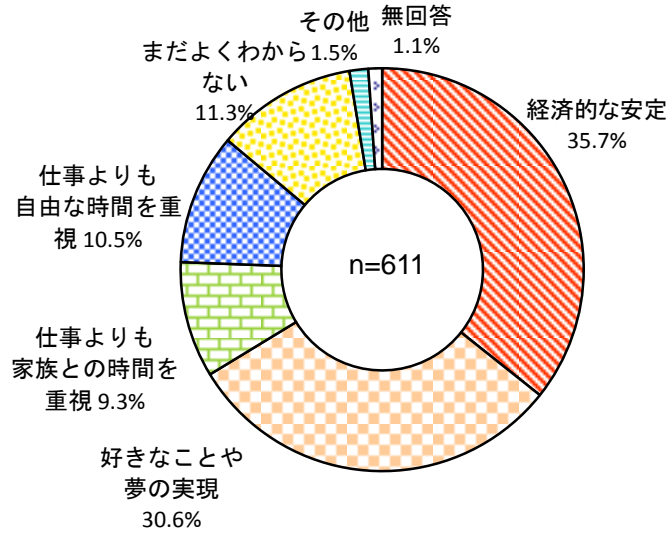
青年に、休日の過ごし方を聞いたところ、「家で過ごす」が32.1%と最も多く、次いで「街で買い物・仲間と楽しむ」(21.4%)、「趣味の時間」(18.8%)、「デートする」(9.2%)、「スポーツする・みる」(5.2%)と続いています。

(9) 希望する暮らし方 (青年)

これからどんな暮らし方をしたいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 経済的な安定	2 好きなことや夢の実現
3 仕事よりも家族との時間を重視	4 仕事よりも自由な時間を重視
5 まだよくわからない	6 その他 ( )

図 4.4.40



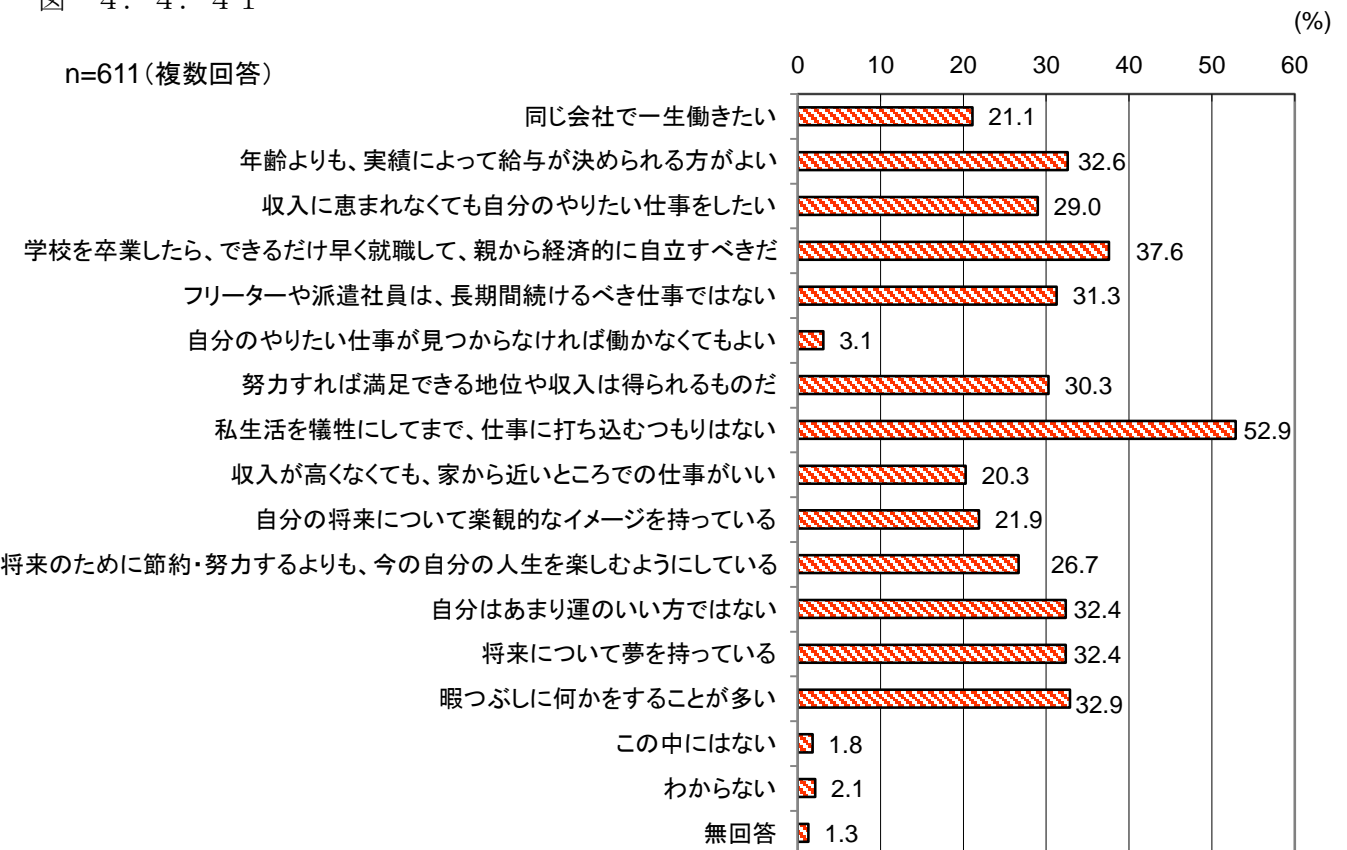
青年に、希望する暮らし方を聞いたところ、「経済的な安定」が 35.7%と最も多く、次いで「好きなことや夢の実現」(30.6%)、「まだよくわからない」(11.3%)、「仕事よりも自由な時間を重視」(10.5%)、「仕事よりも家族との時間を重視」(9.3%)と続いています。

(10) 考え方や生き方（青年）

あなたの考え方や生き方にあてはまるものは何ですか。次の中からあてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

- 1 同じ会社で一生働きたい
- 2 年齢よりも、実績によって給与が決められる方がよい
- 3 収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい
- 4 学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から経済的に自立すべきだ
- 5 フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない
- 6 自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい
- 7 努力すれば満足できる地位や収入は得られるものだ
- 8 私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない
- 9 収入が高くなくても、家から近いところでの仕事がいい
- 10 自分の将来について楽観的なイメージを持っている
- 11 将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しむようにしている
- 12 自分はあまり運のいい方ではない
- 13 将来について夢を持っている
- 14 暇つぶしに何かをすることが多い
- 15 この中にはない
- 16 わからない

図 4. 4. 4 1



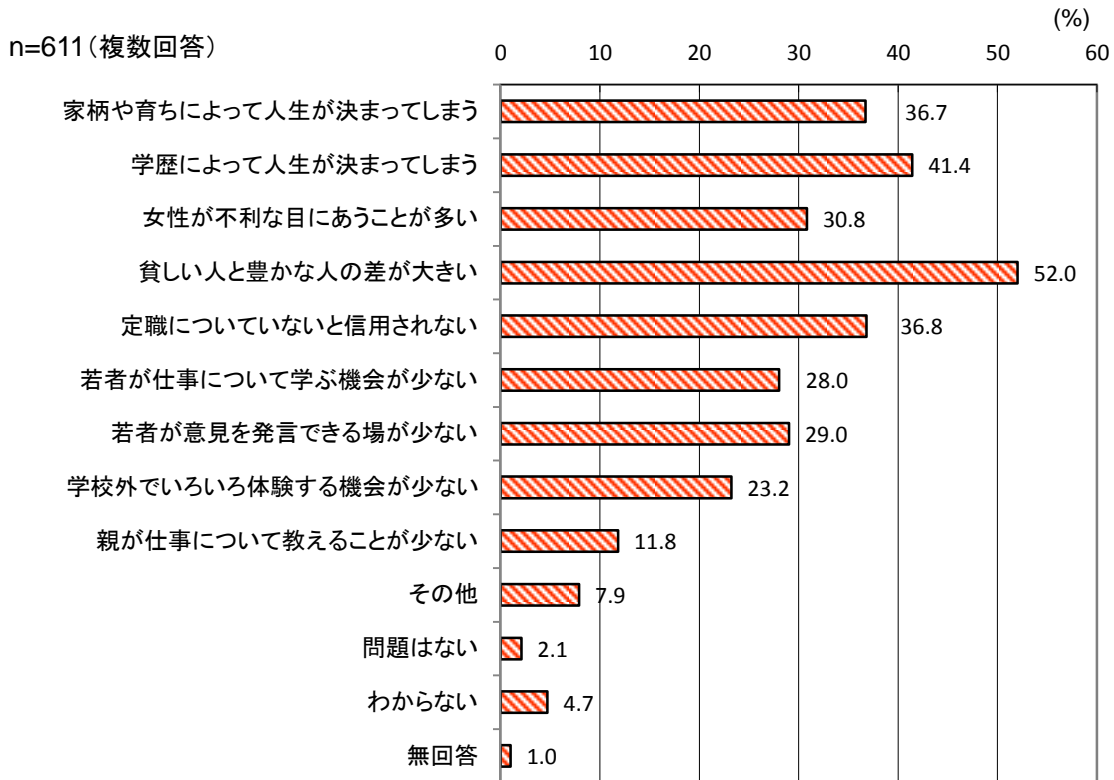
青年に、考え方や生き方を聞いたところ、「私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」が 52.9%で最も多く、次いで、「学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から経済的に自立すべきだ」(37.6%)、「暇つぶしに何かをすることが多い」(32.9%)、「年齢よりも、実績によって給与が決められる方がよい」(32.6%)、「自分はあまり運のいい方ではない」(32.4%)「将来について夢を持っている」(32.4%)と続いています。

(11) 日本の社会の問題点 (青年)

現在の日本の社会で問題だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

1 家柄や育ちによって人生が決まってしまう	2 学歴によって人生が決まってしまう
3 女性が不利な目にあうことが多い	4 貧しい人と豊かな人の差が大きい
5 定職についていないと信用されない	6 若者が仕事について学ぶ機会が少ない
7 若者が意見を発言できる場が少ない	8 学校外でいろいろ体験する機会が少ない
9 親が仕事について教えることが少ない	
10 その他 ( )	
11 問題はない	12 わからない

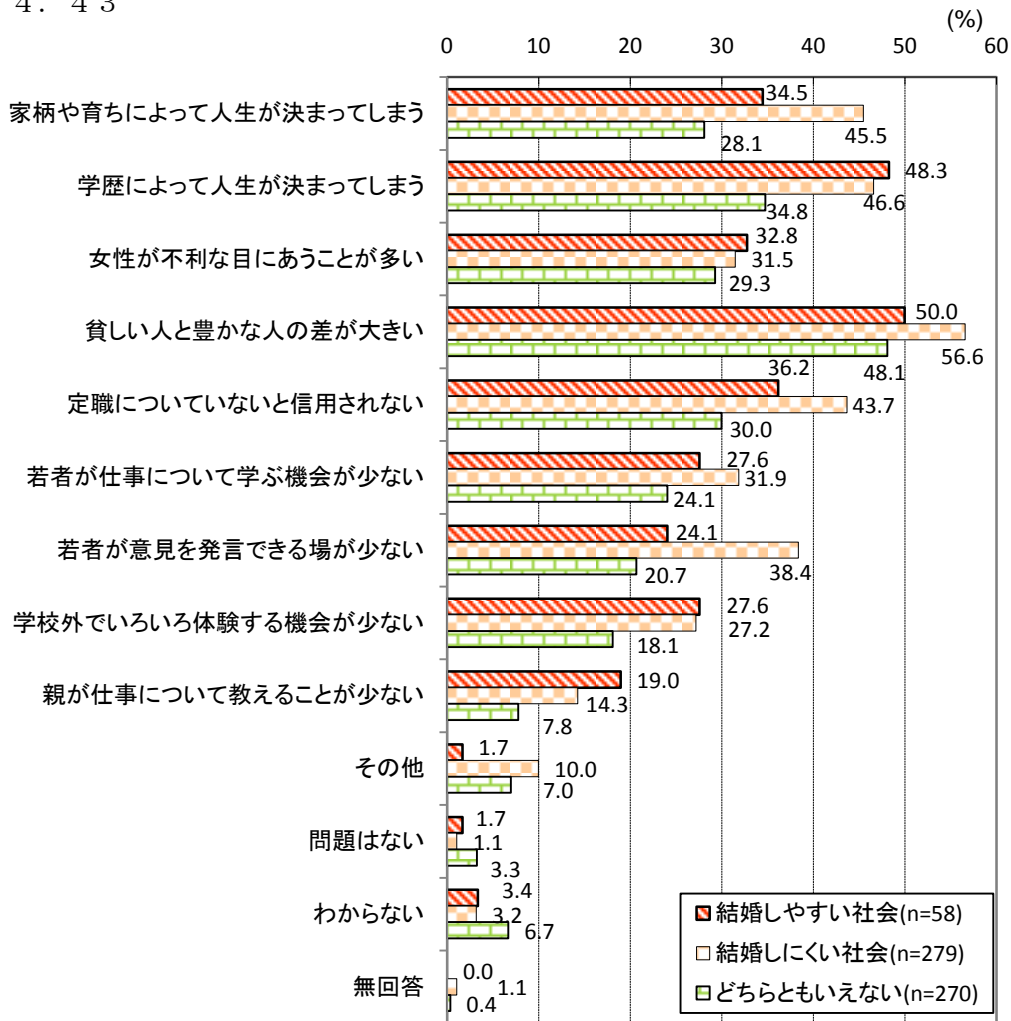
図 4. 4. 4 2



青年に、日本の社会の問題点を聞いたところ、「貧しい人と豊かな人の差が大きい」が 52.0%で最も多く、次いで、「学歴によって人生が決まってしまう」(41.4%)、「定職についていないと信用されない」(36.8%)、「家柄や育ちによって人生が決まってしまう」(36.7%)、「女性が不利な目にあうことが多い」(30.8%)、「若者が意見を発言できる場が少ない」(29.0%)、「若者が仕事について学ぶ機会が少ない」(28.0%)と続いています。

結婚についての考え方との関係

図 4. 4. 4 3



「結婚しやすい社会だと思うか」<sup>1</sup>についての回答別にみると、「若者が意見を発信できる場が少ない」は、「結婚しやすい社会」と回答した人の24.1%、「どちらともいえない」と回答した人では20.7%に対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では38.4%と高くなっています。

同様に、「定職についていないと信用されない」は、「結婚しやすい社会」と回答した人の36.2%、「どちらともいえない」と回答した人では30.0%に対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では43.7%、とより高くなっています。また、「家柄や育ちによって人生が決まってしまう」も同様の傾向がみられており、「結婚しやすい社会」と回答した人の34.5%、「どちらともいえない」と回答した人では28.1%が回答しているのに対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では45.5%、とより高くなっています。

<sup>1</sup> 第4章 4 生活全般 (13) ア. 結婚しやすい社会かどうか (青年)



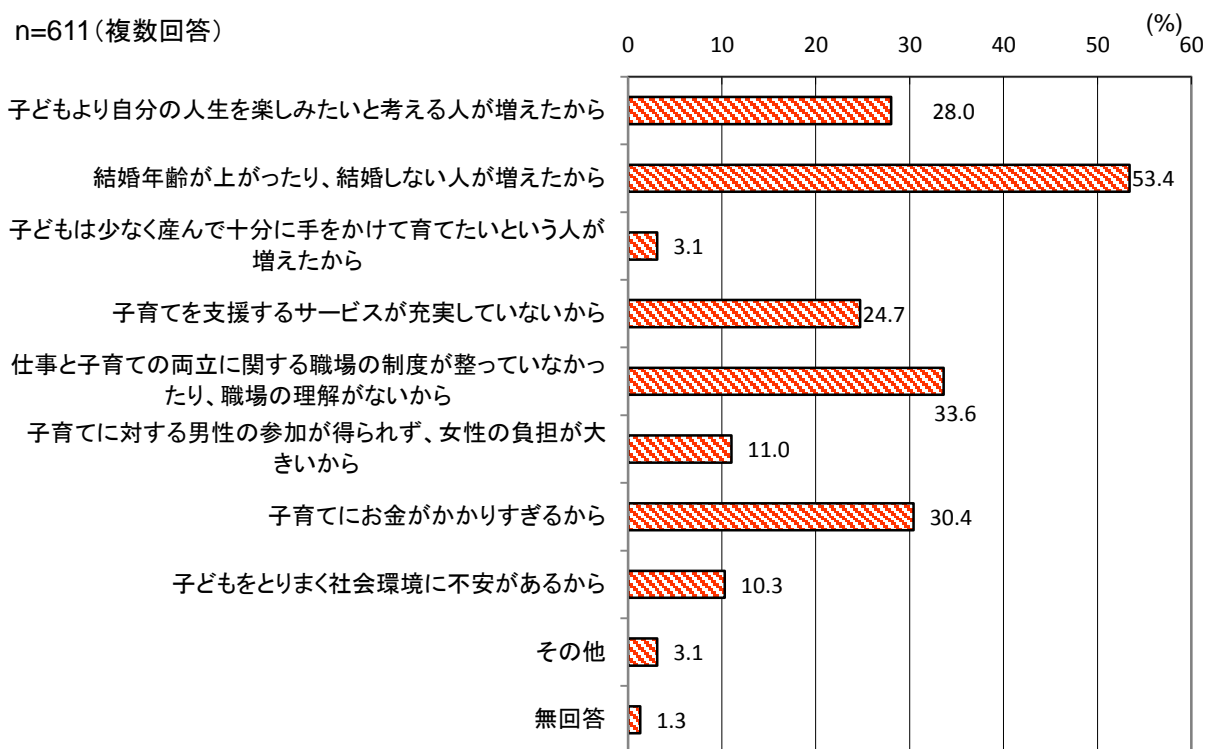
(12) 出生率低下の要因（青年）

現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。出生率低下の要因はどのようなことだと思いますか。次の中からあてはまるものを2つまで選んで番号に○をつけてください。

- 1 子どもより自分の人生を楽しみたいと考える人が増えたから
- 2 結婚年齢が上がったり、結婚しない人が増えたから
- 3 子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから
- 4 子育てを支援するサービスが充実していないから
- 5 仕事と子育ての両立に関する職場の制度が整っていなかったり、職場の理解がないから
- 6 子育てに対する男性の参加が得られず、女性の負担が大きいから
- 7 子育てにお金がかかりすぎるから
- 8 子どもをとりまく社会環境に不安があるから
- 9 その他（ ）

図 4. 4. 4 4

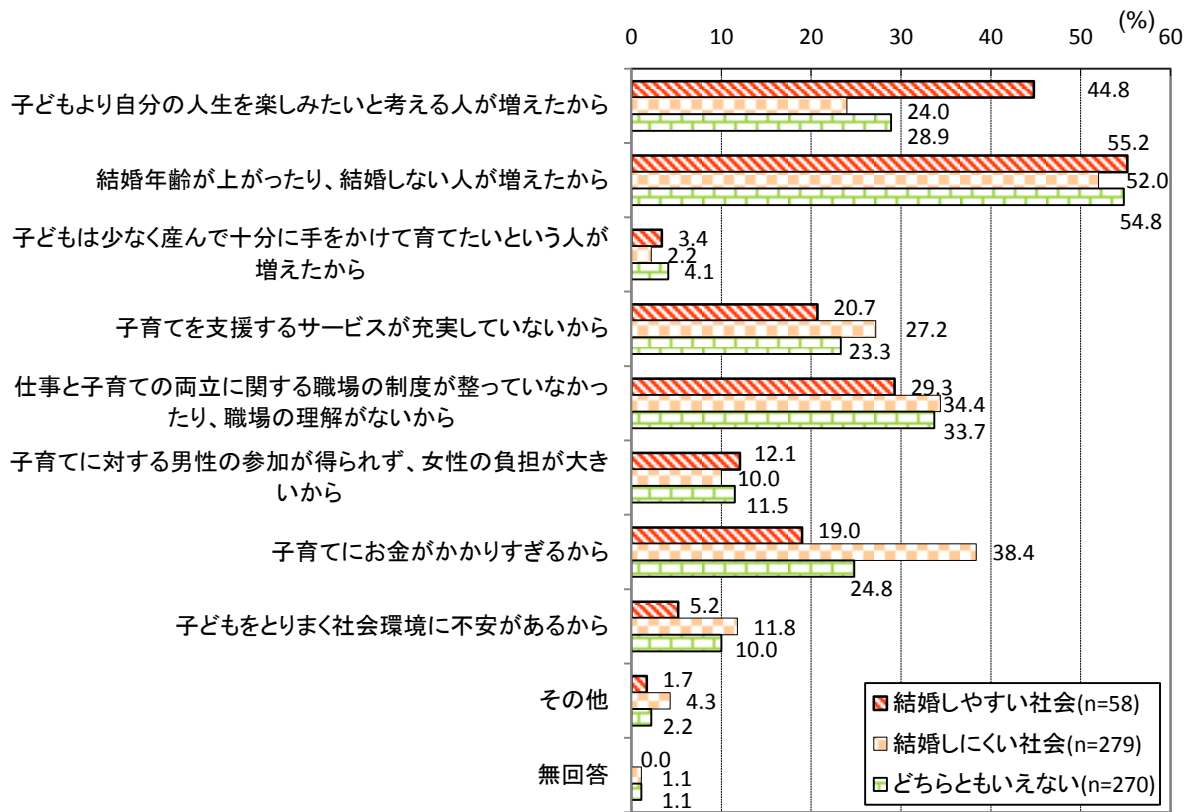
n=611(複数回答)



青年に、出生率低下の要因を聞いたところ、「結婚年齢が上がったり、結婚しない人が増えたから」が 53.4%と最も多く、次いで「仕事と子育ての両立に関する職場の制度が整っていなかったり、職場の理解がないから」(33.6%)、「子育てにお金がかかりすぎるから」(30.4%)、「子どもより自分の人生を楽しみたいと考える人が増えたから」(28.0%)と続いています。

結婚についての考え方との関係

図 4. 4. 4 5



「結婚しやすい社会だと思うか」についての回答別にみると、「子どもより自分の人生を楽しみたいと考える人が増えたから」は、「結婚しやすい社会」と回答したの人の 44.8%が挙げているのに対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では 24.0%、「どちらともいえない」と回答した人では 28.9%にとどまっています。

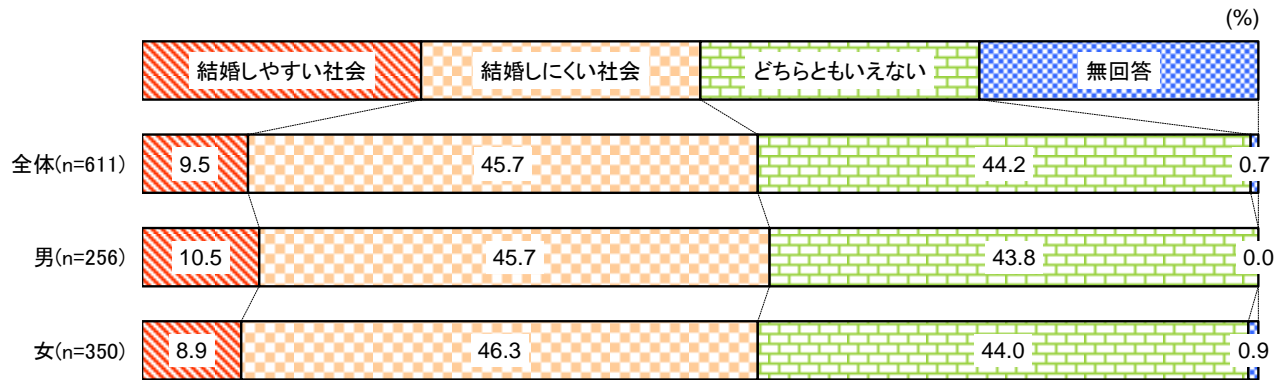
一方で、「子育てにお金がかかりすぎるから」は、「結婚しやすい社会」と回答した人では 19.0%に対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では 38.4%、「どちらともいえない」と回答した人では 24.8%と、より高くなっています。

(13) 結婚について (青年)

ア. 結婚しやすい社会かどうか (青年)

今の社会は、結婚しやすい社会だと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。  
 1 結婚しやすい社会                      2 結婚しにくい社会                      3 どちらともいえない

図 4. 4. 4 6



青年に、今の社会は結婚しやすい社会だと思うか聞いたところ、「結婚しにくい社会」が45.7%、「どちらともいえない」が44.2%と、ほぼ同水準の回答割合で、「結婚しやすい社会」は9.5%にとどまっています。

男女別にみても、ほぼ同じ回答割合となっています。

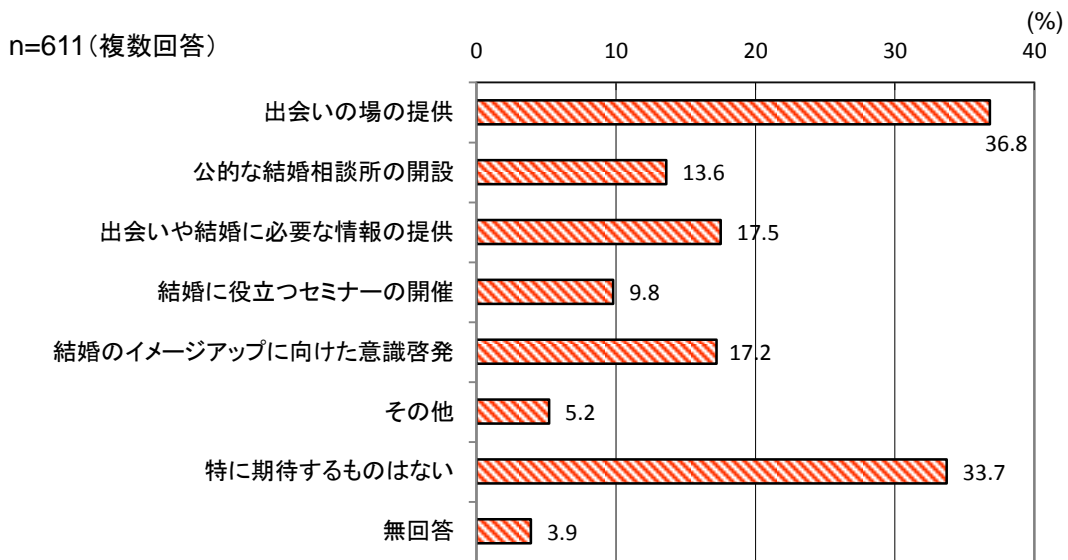


ウ. 結婚にかかわる支援として行政に期待すること（青年）

結婚にかかわる支援として、どのようなことを行政に期待しますか。あてはまるものを次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

- 1 出会いの場の提供（パーティなどのイベント）
- 2 公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）
- 3 出会いや結婚に必要な情報の提供
- 4 結婚に役立つセミナーの開催（交際術・マナー・ファッションなど）
- 5 結婚のイメージアップに向けた意識啓発
- 6 その他（ ）
- 7 特に期待するものはない

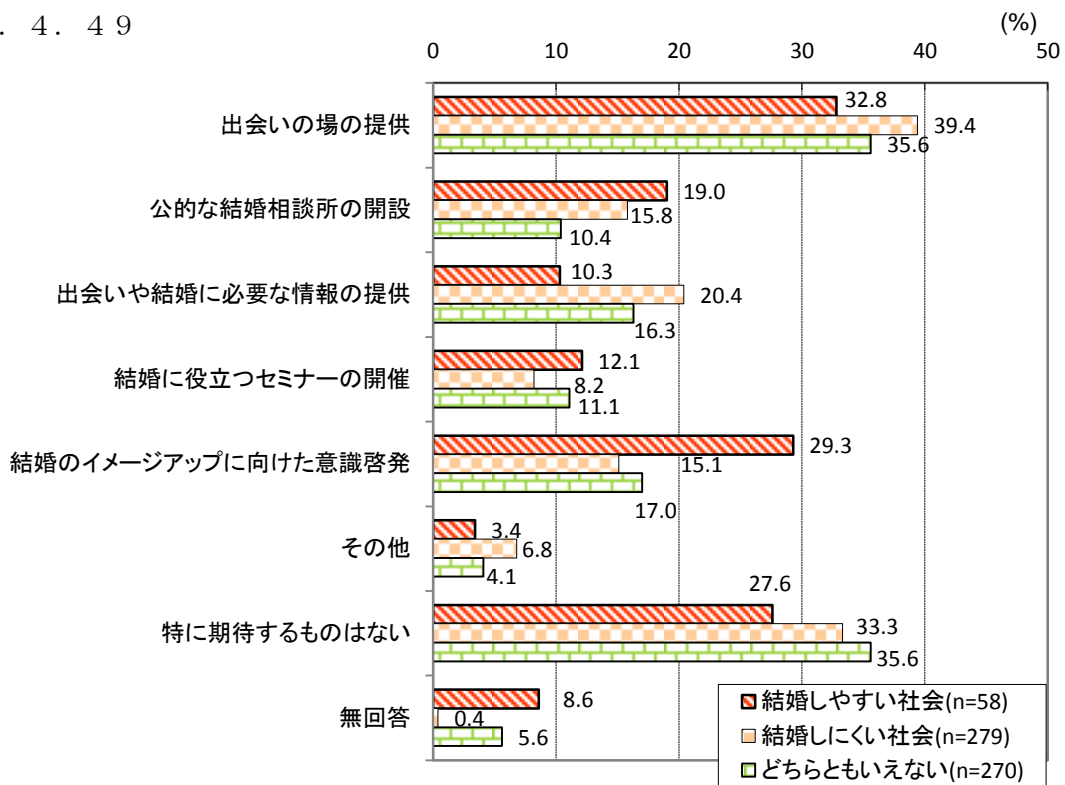
図 4. 4. 4 8



青年に、結婚に関わる支援で行政に期待することを聞いたところ、「出会いの場の提供」が 36.8%と最も多く、次いで「特に期待するものはない」(33.7%)、「出会いや結婚に必要な情報の提供」(17.5%)、「結婚のイメージアップに向けた意識啓発」(17.2%)と続いています。

結婚についての考え方との関係

図 4. 4. 49



「結婚しやすい社会だと思うか」<sup>2</sup>についての回答別にみると、「結婚しやすい社会」と回答した人は、「結婚のイメージアップに向けた意識啓発」が 29.3%であるのに対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では 15.1%、「どちらともいえない」と回答した人では 17.0%と低くなっています。

一方で、「出会いや結婚に必要な情報の提供」は、「結婚しやすい社会」と回答した人では 10.3%に対し、「結婚しにくい社会」と回答した人では 20.4%、「どちらともいえない」と回答した人では 16.3%とやや高くなっています。

<sup>2</sup> 第4章 4 生活全般 (13) ア. 結婚しやすい社会かどうか (青年)